

鹿児島県総合教育センター

平成23年度長期研修研究報告書

研究主題

子どもの自尊感情を育てる道徳学習の在り方
—内容項目間の関連を図り，協同的な学びを
生かした指導の工夫を通して—



伊佐市立大口東小学校

教諭 安樂 朋陽

目次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の構想	
1	研究のねらい	1
2	研究の仮説	2
3	研究の計画（構想図）	2
III	研究の実際	
1	研究の概要	2
2	自尊感情についての考察	2
(1)	自尊感情の捉え方	2
(2)	自尊感情の定義	3
(3)	道德教育における自尊感情の位置付け	3
(4)	自尊感情の七つの構成要素の定義について	4
3	自尊感情を育てる協同的な学び	4
(1)	道德の時間における言語活動の充実について	4
(2)	自尊感情と協同的な学びの関連	5
4	子どもの道德性及び自尊感情に関する実態調査の分析と考察	6
(1)	実態調査の概要	6
(2)	子どもの道德性と自尊感情に関する質問紙	6
(3)	実態調査の分析と考察	6
(4)	実態調査のまとめ	8
5	自尊感情の七つの構成要素について	8
(1)	子どもの発達の段階に即した構成要素の重点化	8
(2)	構成要素と関連の深い内容項目の抽出	9
6	「『自尊感情』道德学習」の構想	9
(1)	「『自尊感情』道德学習」とは	9
(2)	内容項目間の関連を図った内容設定について	9
(3)	「『自尊感情』道德学習」指導計画	12
(4)	協同的な学びを生かした道德の時間における一単位時間の指導過程	13
7	検証授業の実際と考察	13
(1)	検証授業の実際	13
(2)	検証授業の前後における子どもの変容の分析と考察	25
IV	研究のまとめ	
1	研究の成果	28
2	今後の課題	28

※ 引用・参考文献

I 研究主題設定の理由

現在、日本の子どもの自尊感情の乏しさが指摘され、自分に自信がある子どもが国際的に見て少ないことが各調査等で明らかになっている。また、現実から逃避し他者との関わりを避け、希薄な人間関係の中で、自分さえよければという自己の考えに閉じこもりがちな子どもの問題も指摘されている。

この問題の解決には、子ども一人一人が新たなことや困難なことにも挑戦しようという意欲をもてるようにする教育が必要である。そのために、小学校学習指導要領解説道徳編では、自分への信頼感や自信などの自尊感情を養うことが重要であると述べられている。さらに、子どもたちが、他者、社会、自然・環境との豊かな関わりの中で生きるという実感や達成感を深めてこそ健全な自尊感情が育まれるとも述べられている。したがって、子どもが抱える今日的課題の解決に向けては、道徳教育において自尊感情を育てることが、とても重要であると考え。自尊感情が高い子どもは、感情的に安定し、困難なことに会っても粘り強く努力する傾向があるといわれていることから、ぜひ育てたい資質である。

本校では、道徳教育の重点内容項目に生命尊重を据えて指導してきた。道徳の時間と各教科等を結び付けて道徳教育を展開したり、大口東トライアスロン（縄跳び、持久走、1000m遠泳）に取り組むことで心と体を鍛えたり、総合的な学習の時間に人権教育やふるさと教育に力を入れたりして指導してきた。その結果、以前よりもお互いの立場や気持ちを思いやる言動が多くなったり、縄跳び運動や持久走、水泳などを一生懸命に取り組んだりする子どもが多くなってきた。しかし、自分の立てた目標を達成させることを途中であきらめてしまったり、責任のある役割に対して自ら進んで取り組むことに消極的であったりするために、達成感を得られないことが課題となっている。その原因として話題に上がったのも、自尊感情の乏しさであった。具体的には、これまでの取組に、自尊感情の詳細な分析や道徳学習への位置付け等に係る検討が、不足していたのではないかと考えてきた。

小学校学習指導要領解説道徳編には、全部の内容項目が調和的に関わり合いながら、子どもの道徳性が高まっていくようにするために、内容項目間の関連を十分に考慮しながら、指導の順序を工夫したり、内容の一部を関連付けたりした、実態に応じた適切な指導を行うことが大切だと述べられている。自尊感情を育てるためには、それに関わる内容項目を洗い出し、互いに関連付けて指導することが特に重要なのではないかと考えた。また、自尊感情は、他者との関わりの中で育っていくものであることから、友達同士で互いに学び合う中で、自信をもち主体的に学ぶ子どもを育てるといわれる協同的な学びの視点から道徳学習を捉え直すことが有効ではないかと考えた。

そこで、本研究では、まず、道徳教育における自尊感情の意義を明らかにするために、自尊感情の本研究における定義付けを行うとともに、その構成要素を明らかにする。その上で、自尊感情と道徳の内容項目との関連を分析し、内容項目間の関連を図った道徳学習の在り方を探る。あわせて、協同的な学びを生かした道徳の時間の工夫を行うことで、それぞれの教育活動で行う道徳性育成の指導を補充、深化、統合する。これらの取組によって、子どもの自尊感情を育てることができると考え、本主題を設定した。

II 研究の構想

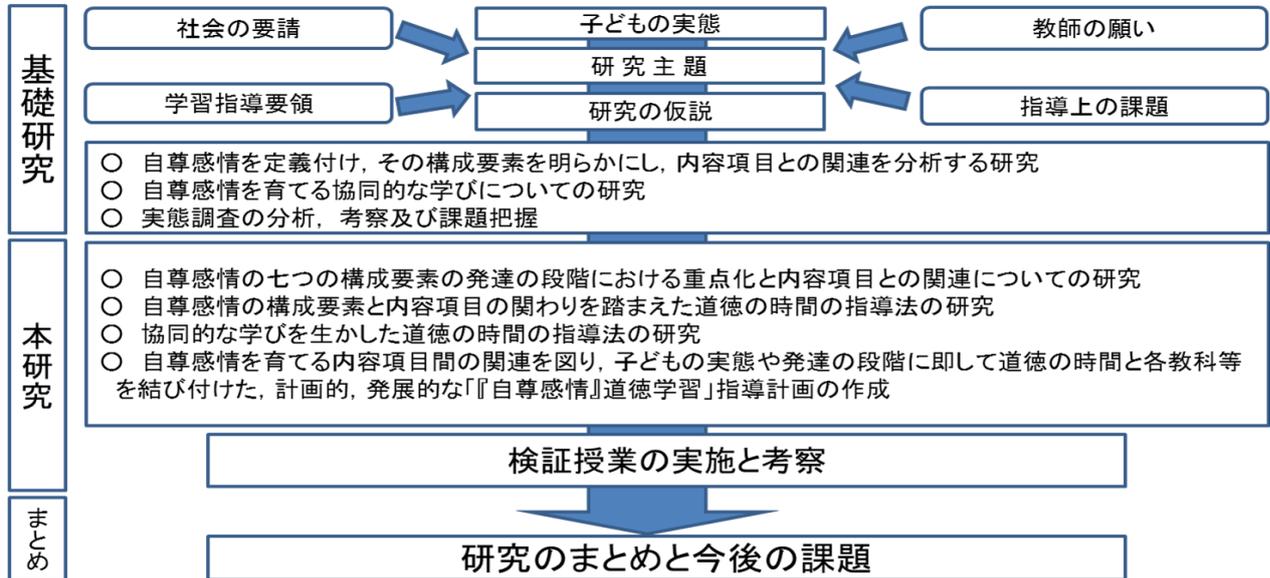
1 研究のねらい

- (1) 自尊感情を定義付け、その構成要素を明らかにし、内容項目との関連を分析する。
- (2) 道徳の時間において、協同的な学びを生かした指導法を明らかにする。
- (3) 自尊感情を育てるために必要な内容項目間の関連を図り、道徳の時間と各教科等を、子どもの実態や発達の段階に即して結び付けた、計画的、発展的な『自尊感情』道徳学習の指導計画を作成するとともに、授業により検証する。
- (4) 検証授業の結果を分析し、研究の成果と今後の課題を明らかにする。

2 研究の仮説

内容項目間の関連を図った道徳の時間を指導計画に位置付け、協同的な学びを生かした指導の工夫をすれば、子どもの自尊感情を育てることができるのではないか。

3 研究の計画（構想図）



III 研究の実際

1 研究の概要

本研究を進めるに当たっては、自尊感情を育てることが大切だと言われながらも、その定義付けが諸説あったり、学習指導要領における位置付けが明確にされていなかったりするため、まず、先行研究から、本研究における自尊感情及び自尊感情を構成する各要素を定義付ける。次に、実態調査を踏まえ、自尊感情の構成要素を発達の段階に即して重点化するとともに、自尊感情と関連の深い道徳の内容項目を明らかにする。そして、自尊感情を育てるために必要な内容項目間の関連を図り、子どもの実態や発達の段階に即して道徳の時間と各教科等を結び付けた、計画的、発展的な「『自尊感情』道徳学習」指導計画を作成する。さらに、道徳の時間では、協同的な学びを生かした授業展開を位置付けることにより、他者との関わりの中で自尊感情を育てることができ、道徳的価値の自覚を深めていくことができるような授業の在り方を検証する。このことが、子どもの自尊感情を育てることへ結び付くと考える。その構想を示したものが図1である。

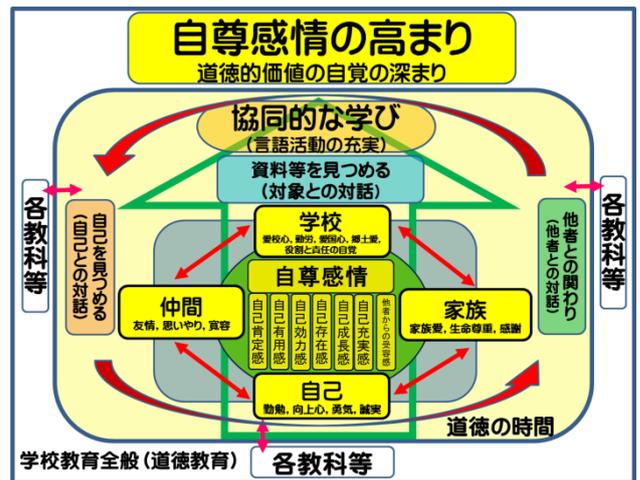


図1 自尊感情を育てる道徳学習の構想図

2 自尊感情についての考察

(1) 自尊感情の捉え方

心理学研究における自尊感情研究の先駆者である、ウィリアム・ジェームズ (1890)は、自尊感情について、願望を分母に成功を分子とする分数で表現し (自尊感情=成功/願望)、願望と成功に大きな差があれば、自尊感情は低くなると述べている。また、梶田^{*1)}は、自尊感情を自己

*1) 梶田徹一 著 『自己意識の心理学』 1988 東京大学出版会

意識の主要な構成要素の一つと捉え、自己への感情と評価であるとしている。このことから、自尊心とは、「自己評価の感情」と捉えることができる。一方、遠藤^{*2)}は、自尊心に関する諸先行研究の知見を整理し、次の自尊心の視点を示している。「①セルフ・エスティーム（自尊心）は、個人の自己の価値についての認知である。②このような認知は自己評価であるが、それは、「重要な他者」を含む人間関係のなかで形成されるものである。」等である。ここで重要なことは、自尊心は、「自己から見た自分を自己評価する感情」と「他者から見た自分を自己評価する感情」という二つの視点をもっているということである。このことから、自尊心を「自己から見た自分」と「他者から見た自分」の二つの視点で捉え指導に生かしていく必要がある（図2）。

また、子どものもつ自尊心と関連する領域は、「自己」、
「仲間」、「家族」、「学校」として Komer&Sinha(1989)
は、述べている。子どもは比較的行動領域が制限されて
いるため、「家族」、「仲間」、「学校」を子どもにおける「重
要な他者」としている。「学校」とは、学校生活において
関わる担任をはじめとする学校職員、地域の住民まで含
まれている。自尊心を他者との関わり合いを通して育
てる際には、子ども自身がこの「重要な他者」の存在に
ついて、明確に自覚することが大切である。

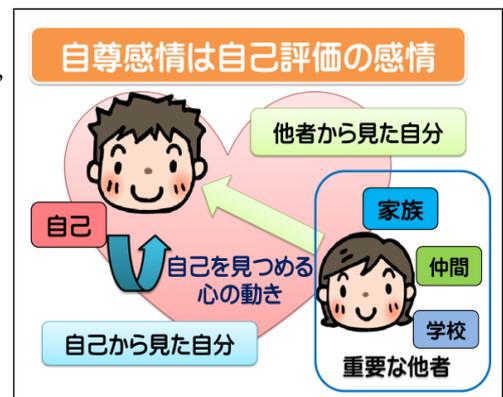


図2 自尊心を自己評価の視点から捉えたイメージ

(2) 自尊心の定義

自尊心の定義について、梶田は、「自己概念の一つ」、「自分自身を基本的に価値あるものとする内的な感覚」としている。また、蘭^{*3)}は、自尊心を、自己概念に包括されるものとし、その中でも評価に関わる部分として捉えている。自尊心の先駆的な心理学者であるローゼンバーグは、自尊心には、自分を「とてもよい (very good)」と考えるものと、自分を「これでよい (good enough)」と考える二つのことがあると述べている。その上で、他者との比較によって生じるというよりも、自分で自分を受け入れる感情である「good enough」が大切であると述べている。

伊藤^{*4)}は、一般的に自尊心が高い人は、「①自分をより肯定し、成功体験を強く認識する、②ストレスや危機に強い、③「健全」「適応」「成長」におけるプラスの要素が良好である、④過去をよりポジティブに捉え、未来に希望をもつ」と述べている。さらに、伊藤は、「自尊心が①人との関係で開かれていること、②社会とのつながりの中に開かれていること、③現在だけでなく、将来にもわたって開かれていることが大切だ。」と述べている。

これらの先行研究を踏まえて、前述した自尊心の捉え方も含め、本研究における自尊心を次のように定義した。

自分のできること、できないこと全ての要素を包括した意味での「自分」を、他者との関わり合いを通して、かけがえのない存在、価値ある存在として誇りに思う気持ち

これは、自分のよいところも悪いところも全てを含めて自分を受け入れるが、そこで完結するのではなく、人との関わり合いを通して自尊心を育てることが大切だという考え方である。

(3) 道徳教育における自尊心の位置付け

小学校学習指導要領解説道徳編には、規範意識、自他の生命の尊重、他者への思いやりとともに、自分への信頼感や自信などの自尊心を養うことの必要性が述べられているが、その具体的な指導内容が明示されていないことなどから、先行研究を基に自尊心の道徳教育における位置付けを確認しておく必要がある。

小学校学習指導要領解説道徳編には、「人間は、本来、人間としてよりよく生きたいという願

*2)*3) 遠藤辰雄・井上祥治・蘭千壽編 『セルフ・エスティームの心理学 自己価値の探求』 1992 ナカニシヤ出版
*4) 伊藤美奈子（慶應義塾大学）講義『子供の自尊心や自己肯定感を高める指導』 2010 夏季集中講座 学習指導B資料

いをもっている。この願いの実現を目指して生きようとするところに道徳が成り立つ。道徳教育とは、人間が本来もっているこのような願いやよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動である。」とも記されており、この人間としてよりよく生きたいという願いは、マズローの欲求階層説の「自己実現の欲求」にあたと考えられる。様々な心理学的研究において、道徳性の高まりと自己実現とは関連することが示されており、これらの研究結果の大部分が相関していることから、道徳性の高まりと自己実現とは同じような意義があると考えられる。道徳教育の目標である道徳性の高まりを目指すためには、「自己実現の欲求」の下位にある、自尊の欲求を満たし他者からの尊敬・承認を得たいという願望である「承認と自尊の欲求」を満たさなければならない。自尊感情を育てることは、この「承認と自尊の欲求」に含まれると考えられ、このことから、道徳性を育成するためには、自尊感情を高めることが必要不可欠であると考えられる（図3）。

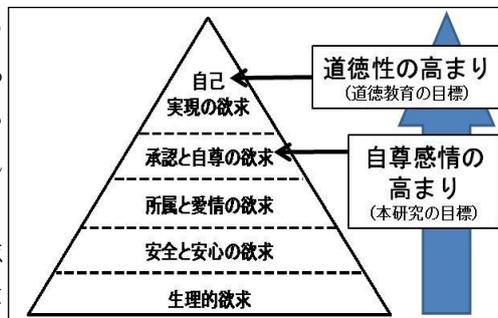


図3 マズローの欲求階層説と道徳教育との関連

(4) 自尊感情の七つの構成要素の定義について

自尊感情を育てる道徳学習を進めるためには、まず、自尊感情を構成する要素が何であるかを明らかにする必要があると考えた。先行研究では、自己理解、自己承認、自己価値、自己信頼、自己受容、自己実現的態度、他者理解・他者受容、他者からの受容感、自己肯定感、自己充実感、自己効力感、自己成長感、自己決定感、自己有用感、自己存在感、自己受容感等が挙げられている。その中で、本研究においては、自尊感情の構成要素を次の表1のように捉えることとし、それぞれの構成要素の定義付けを行った。

表1 自尊感情の構成要素と定義付け

構成要素	定義付け
自己肯定感	自分に対して、自分にはよいところがあると肯定的に評価する感情
自己有用感	自分は、他の人のために役立つ人間だと評価する感情
自己効力感	自分は、目標に向かって努力し、達成できる人間だと評価する感情
自己存在感	自分は、価値があり、他者から認められていると評価する感情
自己成長感	自分は、できるようになったことがあるなど、成長している人間だと評価する感情
自己充実感	自分は、何かをがんばり充実していると評価する感情
他者からの受容感	自分は、受け入れられていると評価する感情

3 自尊感情を育てる協同的な学び

(1) 道徳の時間における言語活動の充実について

小学校学習指導要領解説道徳編は、道徳の時間の指導における配慮とその充実の中で、言葉を生かし考えを深める工夫を求めており、①自分の考えを基に、書いたり話し合ったりするなどの表現する機会を充実し、②自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、③自らの成長を実感できるよう工夫すること、と述べている。子どもに自分の考えをもたせるためには、何について考えるのかを明確に示す必要があり、読み物資料の構造や表現の意図、そこに含まれる道徳的価値や人間観を深く理解し、児童の発達の段階や実態を考慮に入れ、児童一人一人が資料の内容をつかみ、自分の考えをもつことができることが大切である。次に、子どもが、自分の考えを表現できるためには、何でも言い合え、認め合える学級の雰囲気と教師が受容的な姿勢をもつことが大切である。また、子どもが自分とは異なった考えに接する中で、学習が深まることを実感させることが必要であり、子どもが道徳的な成長を自ら実感できるようにするためには、学習を通して、はじめの段階と自分がどう変わったのかを分かるような書く活動の工夫や、子どもが想定したもう一人の自己に問いかけて考えを深める自己内対話の工夫などが大切である。このように、言語活動の充実を図ることは、道徳性をより高めるために、必要なことだと考える。

(2) 自尊感情と協同的な学びの関連

自尊感情は、自己を見つめる心の動きであり、この自己を見つめる心には、自己から見た自分と他者から見た自分の二通りが考えられる。よって、自尊感情を育てるためには、自己を見つめ、自己の考えやよさに気づき、「自己を肯定的に評価できる場」とお互いの意見を交流させながら、他者の考えや気持ちから学んだり、重要な他者である友達や家族、教師から受容されたり、「他者から肯定的に評価される場」を設定することが必要である。本研究においては、この二つの役割を果たすことができる場として、「協同的な学び」を生かすことを考えた。この「協同的な学び」を生かすことは、(1)で述べた言語活動の充実にも通じることになる。

協同的な学びとは、「対象(教材)との出会いと対話、他者(仲間や教師)との出会いと対話、自己との出会いと対話である。」と佐藤^{*5)}が述べている。この協同的な学びにおける自己との対話、他者との対話は、前述の自尊感情を育てるための、「自己を肯定的に評価する場」と「他者から肯定的に評価される場」との二つの場と一致すると考えられる(図4)。さらに、佐藤は協同的な学びが成立する要件として、発問の大切さを述べている。一人では簡単には答えが見つからず、複数的人数で、意見のすり合わせや多様な思考を表現し、交流する協同的な学びを必要とするような発問である。

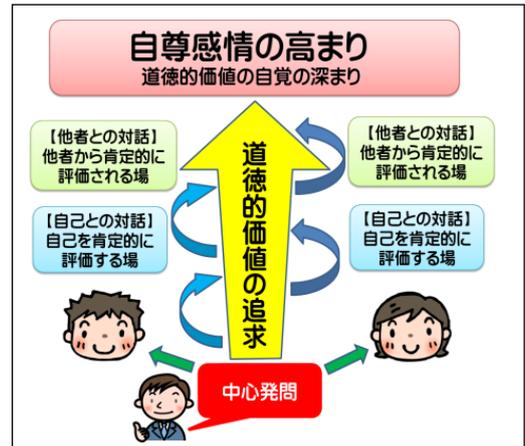


図4 展開場面における協同的な学び

このことは、道徳教育における対話の研究を進めている假屋園^{*6)}も、「対話を導入する必然性は対話の課題(テーマ)が複数の人間で考える必要のある内容になっているかどうかにある。複数の人間で考える必要のある対話課題こそが、思考力を育成する対話につながる。」「一人で考えても思考が進行しない課題とは、何をどこからどう考えていくのか、という論理の筋道がはっきりしない課題である。これはかなり抽象度が高い課題となる。」と述べている。よって、抽象度の高い対話課題を中心発問として、協同的な学びを行わせる必要がある。

また、自尊感情を育てる場としての協同的な学びは、道徳性を高める場とも重なる。道徳性を道徳の時間に高めるためには、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めることが重要である。道徳的価値の自覚を深める視点である、①価値理解、②人間理解・他者理解、③自己理解、④夢や希望をもつ、ということとも協同的な学びは深く関わると考える。

そこで、道徳の時間に自尊感情を育てる協同的な学びに関して、一単位時間の学習過程と対応した形で図式化を行った(図5)。このように、道徳の時間に協同的な学びを生かした指導の工夫をすることで、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、自尊感情を高めることができ、そのことが、道徳性を高めることにつながっていくと考えた。

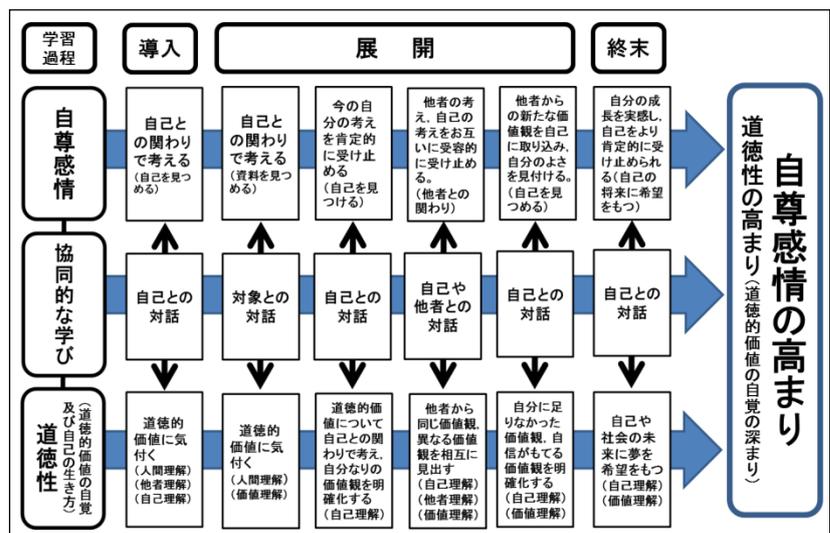


図5 道徳の時間における自尊感情を育てる協同的な学びの流れ

*5) 佐藤学 著 『学校の挑戦 学びの共同体を創る』 2006 小学館

*6) 假屋園昭彦 児童の対話活動に対する教師の指導的参加の分析的研究(1) -道徳の時間における対話を生かした授業デザインの開発- 2010 鹿児島大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編 第61巻

4 子どもの道徳性及び自尊感情に関する実態調査の分析と考察

(1) 実態調査の概要

調査目的	子どもの道徳性に関する実態，子どもの自尊感情に関する実態						
実施期間	平成23年7月8日（金）～7月20日（水）						
調査対象	伊佐市立A小学校	1年生(65人)	2年生(76人)	3年生(63人)	4年生(73人)	5年生(56人)	6年生(63人)
	伊佐市立B小学校	1年生(7人)	2年生(6人)	3年生(4人)	4年生(8人)	5年生(11人)	6年生(7人)
	伊佐市立大口東小学校	1年生(5人)	2年生(15人)	3年生(13人)	4年生(5人)	5年生(8人)	6年生(8人)
	合計	1年生(77人)	2年生(97人)	3年生(80人)	4年生(86人)	5年生(75人)	6年生(78人)
調査方法	子どもの道徳性に関する質問紙を3種類，子どもの自尊感情に関する質問紙を2種類（四件法で，数値化し処理する。）						

(2) 子どもの道徳性と自尊感情に関する質問紙

ア 子どもの道徳性についての質問紙

子どもの道徳性を把握するために，次の三つの質問紙を用いた。

- (7) 具体的な道徳的行為の場면을提示し，その行為の動因を四つの選択肢から選ぶ質問である。選択肢は，指示・命令，道徳的判断，道徳的心情，道徳的態度とし，この順で得点化した。

(例)【高学年：1-(2)希望，勇気，不撓不屈】	
健太君は，二重跳びを200回跳べるようになるという目標を立てました。今日は，雨が降っています。しかし，健太君は，縄跳びの練習を今日もやりました。どんなことを考えて練習をしたでしょうか？	
1 先生に練習しなさいと言われたからやろう。(指示・命令)	2 目標に向かって毎日練習した方がよい。(道徳的判断)
3 必ず200回跳べるようになりたいなあ。(道徳的心情)	4 自分の決めた目標へ努力するのは当然だぞ。(道徳的態度)

- (4) 道徳的行為に対して，行動してよかったという実感をもっているかどうかを問う質問である。子どもが，道徳的行為のよさを感じているかどうかを判断する。

(例)【高学年：1-(2)希望，勇気，不撓不屈】	
あなたは，自分の立てた目標を達成して，うれしい気持ちになったことがありますか？	
4 よくある	3 まあまあある
2 あまりない	1 ぜんぜんない

- (5) 道徳的行為を日常の中でできているかどうかを問う質問である。

(例)【高学年：1-(2)希望，勇気，不撓不屈】	
自分の決めた目標をあきらめずに最後までやりとげることができる。	
4 とてもそう思う	3 まあまあそう思う
2 あまりそう思わない	1 ぜんぜんそう思わない

これら三つの質問を各学年，全内容項目（低学年16項目，中学年18項目，高学年22項目）について行い，回答されたものの平均を算出し，各内容項目の得点とし，発達の段階に応じた子どもの道徳性を把握することとした。

イ 子どもの自尊感情についての質問紙

子どもの自尊感情を把握するために，自尊感情の七つの構成要素について質問紙によるアンケートを行った。自尊感情は自己評価の感情であり，自己から見た自分と他者から見た自分の二つの視点が必要となる。そこで，七つの構成要素それぞれについて，自分が自分のことをどう思うか，家族や友達が自分のことをどう思っていると思うか，という二種類の質問を行った。それら二つを平均したものを自尊感情の得点とした。

(例)【高学年：自己有用感】	
わたしは，まわりの人のために役立っていると思う。(自分から見た自分)	
4 とても思う	3 まあまあ思う
2 あまり思わない	1 ぜんぜん思わない
友達や家族は，あなたが役立つ人だと思っている。(他者から見た自分)	
4 とても思う	3 まあまあ思う
2 あまり思わない	1 ぜんぜん思わない

(3) 実態調査の分析と考察

ア 道徳性と自尊感情の関係について

1年生から6年生まで計493名の子どもの道徳性と自尊感情の相関において，正の強い相関(0.72)があった。自尊感情の高い子どもは道徳性が高く，道徳性が高い子どもは自尊感情が高いことが言える(図6)。この実態調査の結果からも道徳学習において，自尊感情を育てることが必要だと考えられる。

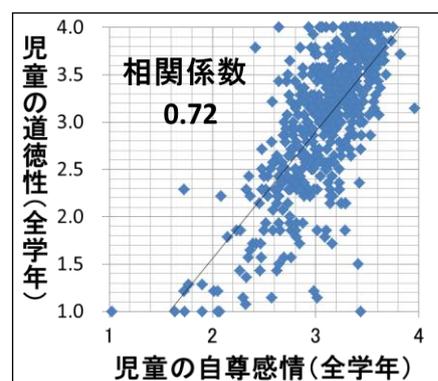


図6 道徳性と自尊感情の散布図

イ 子どもの自尊感情について

本校児童の平均値 (2.89) は3校の平均値 (3.01) に比べて、やや低くなっている (図7)。構成要素ごとに見ても3校の平均を下回っており、特に、「自己有用感」(2.66) や「自己存在感」(2.64)、「他者からの受容感」(2.62) が低い傾向にある。このことから、「自己有用感」については、学級や家族の中で、自分の役割を果たしたり認められたりすることで得られる、自分は人の役に立っているという実感をもつ機会が少ないこと、「自己存在感」については、自分のもつ存在そのものにある価値に気付く機会が少ないこと、「他者からの受容感」については、他者から話を聞いてもらう機会が少なかったり、他者から自分が受け入れられたりしていることをあまり実感できていないことが、それぞれ考えられる。

また、発達の段階を比較してみると、本校では、低学年が高く、高学年になると低くなっている。これは、一般的に言われる学年が上がると自尊感情が低下するという傾向と合致する (図8)。このことから、高学年により重点化して自尊感情を育てる道德学習を行う必要があると言える。

本校の低学年は、3校と比較して、やや自尊感情が低い傾向がある。その中でも「他者からの受容感」(2.47)と「自己有用感」(2.92)が特に低い傾向がある (図9)。他者と関わり、互いに認め合う機会を増やしたり、クラスにおいて係などの役割を自覚させ、責任を果たしていったりする機会を多くしていく必要がある。

本校の中学年は、3校と比較して、全構成要素において、自尊感情が高い傾向にある。しかし、「自己有用感」(2.92)、「自己存在感」(2.83)、「他者からの受容感」(2.83)が、七つの構成要素の中ではやや低い傾向にある (図10)。学級の中での係活動の責任を果たすよさを実感させたり、自分の価値を見出す時間を設定したり、お互いに認め合う機会を増やしたりすることが必要である。

本校の高学年は、3校と比較して、自尊感情がやや低い傾向にある。全構成要素において3校の平均を下回っている (図11)。その中でも、特に、「自己有用感」(2.06)、「自己存在感」(2.00)、「自己肯定感」(2.34)が低い傾向にある。高学年として、委員会活動や係活動などにおいて、人の役に立っている自分を強く自覚させたり、自分の価値やよさについて気付かせたりしていく必要がある。

これらの実態調査の結果を生かし、『『自尊感情』道德学習』の指導計画作成では、数値の低い構成要素を重点的に位置付けることとする。

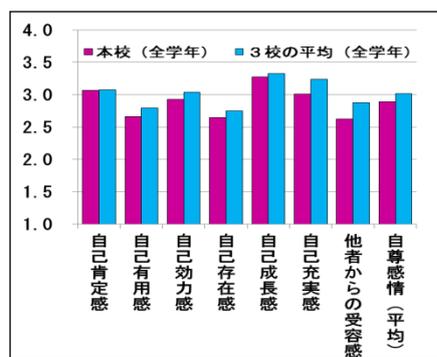


図7 本校と3校の自尊感情の比較 (全学年)

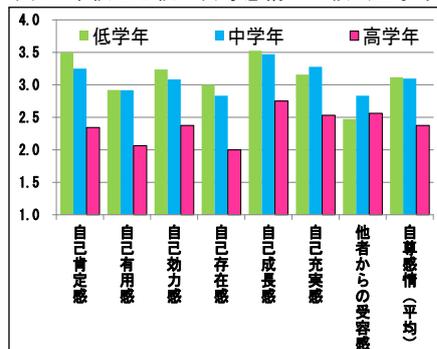


図8 本校における発達の段階の比較 (全学年)

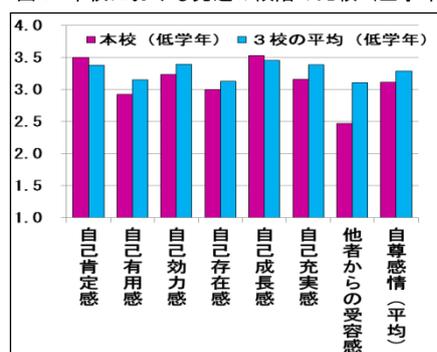


図9 本校と3校の自尊感情の比較 (低学年)

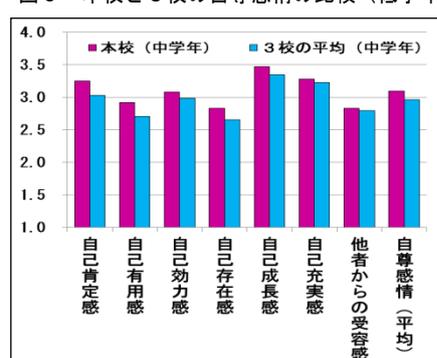


図10 本校と3校の自尊感情の比較 (中学年)

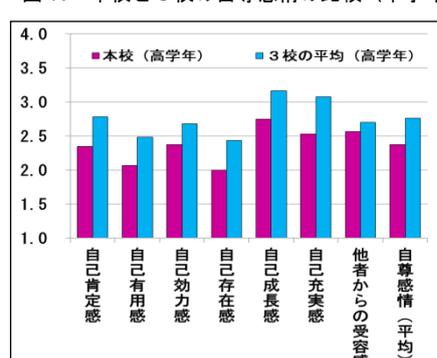


図11 本校と3校の自尊感情の比較 (高学年)

(4) 実態調査のまとめ

子どもの道徳性、自尊感情の実態調査から、道徳性と自尊感情には密接な関連があることが明らかになった。また、自尊感情の七つの構成要素のどの部分が育っているかは、子ども一人一人異なっているが、発達の段階に即したおおよその傾向については把握することができた。これらの結果を生かして、自尊感情の七つの構成要素をどの発達の段階において重点化して指導していけばよいのかを明らかにしたい。さらに、自尊感情を育てるためには、子ども自身が自尊感情とはどういうものであるかを知ることと、その構成要素が、自分の心の中にもあるということを実感させる必要があると考える。そのために、内容項目間の関連を図り、七つの構成要素を育てる『自尊感情』道徳学習を行っていく必要がある。その際には、子どもの思考の流れを大切にしながら取り扱う内容項目を実施する順序を考慮して設定し、個々の構成要素の重要性を自分との関わりで実感させるようにしなければならない。

検証授業においては、自尊感情の低かった5・6年生（高学年）を対象に、『自尊感情』道徳学習をどのように展開していけばよいのかを明らかにしていくものとする。

5 自尊感情の七つの構成要素について

(1) 子どもの発達の段階に即した構成要素の重点化

小学校6年間を見通して自尊感情を育てていくために、発達の段階に即して扱いに軽重をつけ、重点化して指導することが大切だと考えた。そこで、実態調査の結果と小学校学習指導要領解説道徳編に述べられている発達特性を踏まえ、図12のように重点化した。ただし、「他者からの受容感」は、

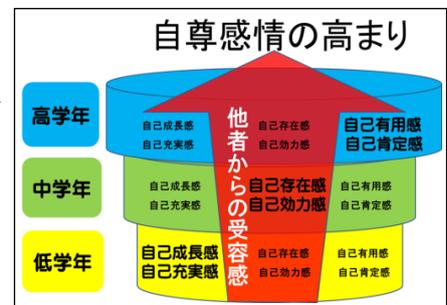


図12 発達の段階に即した構成要素の重点化

他者とのつながりに特に大きく関わっているため、全学年において指導するものとした。道徳の時間に扱わなかった構成要素は、全教育活動において、各教科等の中で補いながら指導していくこととした。自尊感情は、他者とのつながりの中で育まれるものであることから、他者とのつながりに大きく関わる「他者からの受容感」は特に大切だと考える。実態調査の結果を見てみると、低学年（2.47）、中学年（2.83）、高学年（2.56）と、どの発達の段階も低い傾向があり、特に重点的に指導をする必要があると考えた。そこで、小学校6年間を通し、重点化して指導する構成要素を、「他者からの受容感」とした。

自分の成長を感じる、という「自己成長感」とがんばっている自分を感じる「自己充実感」は、他の構成要素と比べて子どもが実感しやすく、自尊感情を育てるために基本的な感情だと考えられる。実態調査の結果を見ても、「自己成長感」は、低学年（3.53）、中学年（3.47）、高学年（2.75）、「自己充実感」は低学年（3.16）、中学年（3.28）、高学年（2.53）と高い傾向にあり、どの発達の段階でも実感しやすい構成要素だと考えられる。そこで、低学年においては、自分の「自己成長感」と「自己充実感」を重点化して指導することとした。

中学年は、身体が丈夫になり、運動能力や知的な能力も大きく発達し、運動や勉強にしても自分はできる、という感覚が育つ時期である。そこで、達成感を味わうことで得られる「自己効力感」を中学年において重点化して指導することが効果的であると考えた。また、実態調査をみると、中学年は「自己存在感」が2.83と低い傾向がある。よって、自分に価値があり、周りから頼りにされるという「自己存在感」も重点化して指導する必要があると考えた。

高学年は、集団や社会との関わりで、属している集団や社会における自分の役割や責任についての自覚が特に深まる時期であると学習指導要領に述べられている。そこで、「自己有用感」を高学年で重点化して指導することが望ましいと考えた。また、この時期は、自分を他者と比較する傾向が強くなり、自分のよさを見失いがちであると言われている。そこで、高学年において、

自分のよさを見つけ、認めるという「自己肯定感」も重点化して指導する必要があると考えた。

(2) 構成要素と関連の深い内容項目の抽出

自尊感情を構成する七つの要素を道徳学習の中で具体的に育てていくためには、七つの構成要素がどの道徳的価値、すなわち内容項目と強い関わりがあるのかを明らかにする必要がある。そこで、学習指導要領解説道徳編に示されている内容項目を整理し、その考察を基に、特に関連が深いと判断した内容項目の抽出を行った（表2）。

表2 自尊感情の七つの構成要素と関連の深い内容項目

自尊感情の七つの構成要素	発達の段階ごとに関連した内容項目		
	低学年	中学年	高学年
自己肯定感	1-(3) 勇気 3-(1) 生命尊重 4-(3) 家族愛	1-(3) 勇気 1-(5) 向上心, 個性伸長 3-(1) 生命尊重 4-(3) 家族愛	1-(2) 希望, 勇気, 不撓不屈 1-(6) 向上心, 個性伸長 3-(1) 生命尊重 4-(5) 家族愛
自己有用感	4-(2) 勤労 4-(3) 家族愛 4-(4) 愛校心 4-(5) 郷土愛	4-(2) 勤労 4-(3) 家族愛 4-(4) 愛校心 4-(5) 郷土愛	4-(3) 役割と責任の自覚 4-(4) 勤労, 社会奉仕, 公共心 4-(5) 家族愛 4-(6) 愛校心 4-(7) 郷土愛, 愛国心
自己効力感	1-(2) 勤勉・努力 4-(2) 勤労	1-(2) 勤勉・努力, 忍耐 4-(2) 勤労	1-(2) 希望, 勇気, 不撓不屈 4-(3) 役割と責任の自覚 4-(4) 勤労, 社会奉仕, 公共心
自己存在感	2-(4) 尊敬・感謝 3-(1) 生命尊重 4-(3) 家族愛	2-(4) 尊敬・感謝 3-(1) 生命尊重 4-(3) 家族愛	2-(5) 尊敬・感謝 3-(1) 生命尊重 4-(5) 家族愛
自己成長感	1-(2) 勤勉・努力 4-(2) 勤労	1-(2) 勤勉・努力, 忍耐 1-(5) 向上心, 個性伸長 4-(2) 勤労	1-(2) 希望, 勇気, 不撓不屈 1-(6) 向上心, 個性伸長 4-(4) 勤労, 社会奉仕, 公共心
自己充実感	1-(2) 勤勉・努力 4-(2) 勤労	1-(2) 勤勉・努力, 忍耐 4-(2) 勤労	1-(2) 希望, 勇気, 不撓不屈 4-(4) 勤労, 社会奉仕, 公共心
他者からの受容感	2-(2) 思いやり・親切 2-(3) 友情・信頼, 助け合い 2-(4) 尊敬・感謝 4-(2) 勤労 4-(3) 家族愛 4-(4) 愛校心 4-(5) 郷土愛	2-(2) 思いやり・親切 2-(3) 友情・信頼, 助け合い 2-(4) 尊敬・感謝 4-(2) 勤労 4-(3) 家族愛 4-(4) 愛校心 4-(5) 郷土愛 4-(6) 愛校心	2-(2) 思いやり・親切 2-(3) 友情・信頼, 助け合い 2-(4) 寛容・謙虚 2-(5) 尊敬・感謝 4-(3) 役割と責任の自覚 4-(4) 勤労, 社会奉仕, 公共心 4-(5) 家族愛 4-(6) 愛校心 4-(7) 郷土愛, 愛国心

6 『自尊感情』道徳学習の構想

(1) 『自尊感情』道徳学習とは

「『自尊感情』道徳学習」とは、子ども一人一人の自尊感情を育てることをねらいとしており、自尊感情の七つの構成要素に関わる内容項目間の関連を図り、子どもの実態や発達の段階に即して道徳の時間と各教科等を結び付けた、計画的、発展的な教育活動として、本研究で新たに構想したものである。以下のように定義した。

自尊感情の七つの構成要素に関わる内容項目間の関連を図った上で、子どもの実態や発達の段階に即して、道徳教育の要である道徳の時間と各教科等や行事における道徳性育成の指導との関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するとともに、子どもの自尊感情を育てることを目的とした教育活動。

(2) 内容項目間の関連を図った内容設定について

ア 内容項目間の関連付け

(7) 内容項目間の関連付けの必要性

私は過去の研究で、内容項目の生命尊重を分析し、生命尊重の八つの観点に焦点を当てて、道徳の時間と各教科等を関連させた総合単元的な道徳学習を展開したことがある。その結果、子どもたちは、命の大切さは実感するものの、命を支えてくれる家族へ感謝の気持ちや伝えたり、日常生活で具体的に家族へ働きかけたりするまでには、至らなかった。また、自分の命の大切さはわかるが、それが、自信をもって生きることにはまではつながらなかった。このことから、生命尊重単独の指導ではなく、生命尊重で連関性という支えられる命を学習した場合、次の道徳の時間では家族愛を扱う、といったように内容項目間の

関連を図り、道徳的自覚をより深め道徳的実践力を育成する必要があると考えた。

学習指導要領道徳編には、「具体的な場で道徳的行為が成される場合、「第2 内容」に示されている一つの内容項目だけが単独に作用するということはほとんどなく、そこでは、ある内容項目を中心として、同一視点内及び他の視点にある幾つかの内容項目が関連し合っており、道徳の時間の指導に当たっては、項目間の関連を十分に考慮しながら、指導の順序を工夫したり、内容の一部を関連付けたりして、実態に応じた適切な指導を行うことが大切である。」と述べられている。また、自尊感情の七つの構成要素を育てるためには、単独の内容項目だけでは、十分ではない。七つの構成要素にかかわる複数の内容項目の関連を図り、足りないところを補いながら指導を展開していく必要がある。そこで、本研究では、七つの構成要素にかかわる内容項目間の関連を図った取組を行っていく(表3)。

なお、高学年で重点化して指導する、自己肯定感、自己有用感、他者からの受容感については、指導計画全体を通し、各教科等の中での指導を含めて量的に多く扱い、指導していくものとする。

(イ) 自尊感情を育てるのに必要な内容項目間の関連の設定

表3 内容項目間の関連図

時	内容項目等	関連する領域	七つの自尊感情の構成要素							内容項目等設定の理由
			自己肯定感	自己有用感	自己効力感	自己存在感	自己成長感	自己充実感	他者からの受容感	
1	道徳オリエンテーション	自己 家族 仲間 学校	■	■					■	自尊感情と関連する領域は、小学生の子どもにとっての「重要な他者」との関わりから、「自己」「家族」「仲間」「学校」の四つを設定した(P3参照)。第1時のオリエンテーションでは、この四つの領域と七つの自尊感情の全てを扱う。
2	3-(1) 生命尊重	自己 家族		■		■			■	指導の順番として、まず、自分自身の存在そのものに価値があることを感じさせるために、「自己」を扱い、内容項目としては、「3-(1)生命尊重」とする。自己の存在価値、命の価値に気付かせる。
3	4-(5) 家族愛	自己 家族		■		■			■	かけがえのない自分は、家族から大切にされていることについて考えさせる。子どもにとって最も「重要な他者」である「家族」を扱い、内容項目としては「4-(5)家族愛」とする。
4	2-(3) 友情・信頼、助け合い	仲間	■				■	■	■	かけがえのない命をもち家族に大切にされている自分は、仲間からも受け入れられ、共に成長していることに気付かせる。「家族」の次は、子どもにとって「重要な他者」の「仲間」を扱い、内容項目としては「2-(3)友情・信頼、助け合い」とする。
5	1-(6) 向上心、個性伸長	自己	■				■		■	自分にはよさがあることに気付かせる。「家族」「仲間」を通して「他者からの受容感」を学んだ後、すばらしい存在である自分のよさに意識を向けさせるために、「自己」を扱い、内容項目として「1-(6)向上心、個性伸長」とした。
6	1-(2) 希望、勇気、不撓不屈	自己	■		■				■	前時の「1-(6)向上心、個性伸長」で自分のよさに気付き、それを伸ばしていくために、再度「自己」を扱い、内容項目として「1-(2)希望、勇気、不撓不屈」とする。
7	4-(4) 勤労、社会奉仕、公共心	学校		■	■				■	家族、仲間から受け入れられ、よさをもっているかけがえのない自分が、人のため社会のために何ができるのかを考えるように「学校」を扱い、内容項目を「4-(4)勤労、社会奉仕、公共心」とする。
8	道徳の振り返り	自己 家族 仲間 学校	■	■	■	■	■	■	■	最後に、道徳の時間の振り返りの時間を設定し、1か月に渡り学んだことを内容項目、領域、七つの構成要素の視点をもって振り返るようにする。

イ 道徳の時間に関連付ける各教科等の内容の選択

自尊感情の構成要素を育てるのにより適切な各教科等が教育課程に計画されている時期を判断し、構成要素との関連が深い各教科等の選択を行う。本校の年間指導計画に基づき、七つの構成要素を育てるために、表3の内容項目について取り扱う題材を、各教科等が特に充実している時期と判断した11月2日～12月11日の約1か月間に重点化して位置付けることとした。期間中、自尊感情の七つの構成要素と関連が深いと判断した各教科等を以下の表4のように選択することとした。

表4 自尊感情の構成要素と関連の深い各教科等の分析

各教科等	単元名 主題名	関連する 領域	育てたい構成要素 …指導計画全体を通して 重点化した構成要素							この授業における 『自尊感情』道徳学習の意義
			自己肯定感	自己有用感	自己効力感	自己成長感	自己存在感	自己充実感	他者からの受容感	
特別活動	自分を知らう、 友達とつながろう	自己 仲間	自己肯定感						他者からの受容感	自分のよさを見つめたり（自己肯定感）、友達や周りの人とのつながりを感じたりすること（他者からの受容感）で、自己を肯定的にとらえさせ、自尊感情を育てる。
PTA バザー・ 校区駅伝大会	最後まであきらめず がんばろう	自己 学校		自己有用感	自己効力感				自己充実感	PTA バザーで自分の役割を果たし、人の役に立つことを実感したり（自己有用感）、駅伝で最後まであきらめずに走り、達成感を感じたり（自己充実感）、やればできる実感をもったり（自己効力感）することで、自尊感情を育てる。
高齢者との 交流会	高齢者の方と ふれあおう	自己 学校		自己有用感			自己成長感		他者からの受容感	地域の高齢者の方々とバターゴルフをして教えてもらい上達したり（自己成長感）、給食を一緒に食べ会話をしたりすることを通して、地域の方々に見守られている（他者からの受容感）ことを感じさせ、自尊感情を育てる。
避難訓練 (火災)	自分の命を守ろう	自己 学校					自己存在感		他者からの受容感	自分の大切な命を守ることを意味（自己存在感）を実感させ、自己の存在の価値に気付かせることで、自尊感情を育てる。
国語	説明の仕方について 考えよう（5年生） もの見方を 広げよう （6年生）	自己 仲間			自己効力感				他者からの受容感	「天気を予想する」の文章から筆者の伝えたかったことを、根拠を明確に示しながら自信をもって説明し自尊感情を育てる（5年生） 「鳥獣戯画」を読み、教科書に示されている絵から感じたことを、自分なりの根拠を示しながら自信をもって説明をし、自尊感情を育てる。（6年生）
総合的な 学習の時間 (人権月間)	人権月間 自 分のことを もっと知り、 仲間のよさ を見つけよう	自己 仲間	自己肯定感						他者からの受容感	人権月間の取組を生かしながら、自己や友達を見つめ、お互いのよさ（自己肯定感）を発見し、認め合うこと（他者からの受容感）で、自己を肯定的に捉えさせ、自尊感情を育てる。
人権集会	自分の思いを 伝えよう	自己 仲間 学校	自己肯定感						他者からの受容感	学校の友達の思いや考えを知ることで、友達のよさを見つめたり（自己肯定感）、友達の意見を温かく受け止めたり（他者からの受容感）することで、自尊感情を育てる。
人権教室	相手の立場を 考えよう	自己 仲間 学校					自己成長感		他者からの受容感	人権のビデオを視聴し、いじめられている人の立場を思いやる（他者からの受容感）とともに、勇気を出し心の弱さを乗り越える（自己成長感）ことの大切さを知り、自尊感情を育てる。
体育	走り高跳びで 自己ベストを 出そう	自己 仲間		自己有用感	自己効力感		自己成長感		他者からの受容感	走り高跳びのコツを知り、友達と互いに教え合い（他者からの受容感）、自己ベストを跳べるようになった自分の成長を感じ（自己成長感）、自分はやればできるという感覚（自己効力感）をもつことで、自尊感情を育てる。
学習発表会	将来の夢を 伝えよう	自己 仲間 学校	自己肯定感	自己有用感	自己効力感	自己存在感	自己成長感	自己充実感	他者からの受容感	これまでの練習を思い出ししながら、自分たちの将来の夢（自己肯定感）について一生懸命に発表したり（自己充実感）、堂々と発表できた自分の成長を感じたり（自己成長感）、やればできるという感覚（自己効力感）をもったり、他の学年や保護者、地域の方から認め受け入れられていると感じたり（他者からの受容感）することで、自尊感情を育てる。

(3) 『自尊感情』道徳学習』指導計画

自尊感情についての捉えを基に、表3、表4を踏まえ、道徳の時間を全8時間、各教科等の授業を全10時間の計18時間（PTAバザー・校区駅伝は除く）を関連付けて『自尊感情』道徳学習』の指導計画を作成した（表5）。

- ※ 『自尊感情』道徳学習』の指導計画作成のポイント
- 【1】 内容項目間の関連を図りながら、道徳の時間を位置付けてある。
 - 【2】 構成要素との関連が深い各教科等の選択を行い、道徳の時間に関連付けて位置付けてある。
 - 【3】 道徳の時間、各教科等において、扱う「関連する領域」、「育てたい構成要素」を明示してある。
 - 【4】 『自尊感情』道徳学習』の「オリエンテーション」と「振り返りの時間」を設定してある。

表5 『自尊感情』道徳学習』指導計画 5・6年（複式学級）2学期

道徳の時間						各教科等												
順番 日付	内容項目等	関連 する 領域	育てたい構成要素 ●…指導計画全体を通して重点 化した構成要素 □…道徳の時間に重点化して 扱う構成要素				順番 日付	単元名 主題名	関連 する 領域	育てたい構成要素 ●…指導計画全体を通して重点 化した構成要素								
① 11/2	道徳のオリエンテーション	自己 家族 仲間 学校	自己肯定感	自己有用感	自己効力感	自己存在感	自己成長感	自己充実感	他者からの 受容感	② 11/2	特別活動 「自分を知ろう、 友達とつながろう」	自己 仲間	自己肯定感					他者からの 受容感
③ 11/4	主題名「命の価値」 【3-(1)生命尊重】 資料名「妹の手紙」	自己 家族		自己有用感		自己存在感			他者からの 受容感	④ 11/6	PTAバザー・ 校区駅伝 「最後まであきら めずにがんばろう」	自己 学校		自己有用感	自己効力感		自己充実感	他者からの 受容感
⑥ 11/11	主題名「家族に愛されて」 【4-(5)家族愛】 資料名「母とながめた一 番星」	自己 家族		自己有用感		自己存在感			他者からの 受容感	⑤ 11/7	高齢者との 交流会 「高齢者の方 とふれあおう」	自己 学校		自己有用感		自己成長感		他者からの 受容感
⑦ 11/15	主題名「友達と支え合う」 【2-(3)友情・信 頼、助け合い】 資料名「心のレシピ」	仲間	自己肯定感			自己成長感	自己充実感		他者からの 受容感	⑧ 11/22	避難訓練 (火災) 「自分の命を 守ろう」	自己 学校			自己存在感			他者からの 受容感
⑩ 11/24	主題名「自分のよいと ころを伸ばす」 【1-(6)向上心、個 性伸長】 資料名「うれしく思えた日から」	自己	自己肯定感			自己成長感			他者からの 受容感	⑨ 11/22	国語 「説明の仕方を 考えよう」(5年) 「もの見方を 広げよう」(6年)	自己 仲間			自己効力感			他者からの 受容感
⑫ 11/30	主題名「希望をもって努 力する」 【1-(2)希望、勇 気、不撓不屈】 資料名「メジャーリー ガー・イチロー」	自己	自己肯定感		自己効力感				他者からの 受容感	⑪ 11/29	総合的な学習 の時間(人権月間) 「自分のこと をもっと知り、 仲間のよさを見 つけよう」	自己 仲間	自己肯定感					他者からの 受容感
⑮ 12/6	主題名「みんなのために」 【4-(4)勤労、社会 奉仕、公共心】 資料名「堀之内良眼房」	学校	自己有用感	自己効力感					他者からの 受容感	⑬ 11/30	人権集会 「自分の思い を伝えよう」	自己 仲間 学校	自己肯定感					他者からの 受容感
										⑭ 12/1	人権教室 「相手の立場 を考えよう」	自己 仲間 学校				自己成長感	他者からの 受容感	
⑰ 12/7	道徳の振り返り の時間	自己 家族 仲間 学校	自己肯定感	自己有用感	自己効力感	自己存在感	自己成長感	自己充実感	他者からの 受容感	⑯ 12/7	体育 「走り高跳び で自己ベスト を出そう」	自己 仲間	自己有用感	自己効力感	自己成長感			他者からの 受容感
										⑱ 12/11	学習発表会 「将来の夢を 伝えよう」	自己 仲間 学校	自己肯定感	自己有用感	自己効力感	自己存在感	自己成長感	自己充実感

(4) 協同的な学びを生かした道徳の時間における一単位時間の指導過程

①内容項目間の関連を図り，②七つの構成要素を取り入れ，③協同的な学びを生かした，道徳の時間における一単位時間の指導過程を表6のように設定した。

表6 道徳の時間における一単位時間の指導過程

過程	学習活動	指導上の留意点
導入	1 前時を振り返り，内容項目間の関連を図る。 (『自尊感情』道徳学習) マップの使用)	○ 内容項目の関連を図るために『自尊感情』道徳学習) マップや各種カードを使用する。 ○ 指導する構成要素へ意識が向くようにする。
	2 指導する構成要素と内容項目との関係を考える。	○ 自分との関わりで，内容項目と構成要素を捉えさせる。
	3 構成要素や内容項目に関係する実態調査の結果から自分を振り返る。 【自己との対話】	○ 構成要素と内容項目の関係に気付かせるようにし，構成要素を含んだ学習課題を引き出すようにする。
	4 学習課題を設定する。	
展開	5 資料の範読をする。【対象との対話】	○ 資料は子どもが考えや思いを書き込めるように，行間を空けたり，拡大したりするなど工夫をする。
	6 構成要素を通して，道徳的価値の自覚を深めるような中心発問をする。	○ 内容項目，構成要素，資料を踏まえて中心発問を行う。
	7 一人で考える。【自己との対話】	○ 自己との対話で，教師が肯定的な関わりをする机間指導を行い，自己と他者からの肯定的な評価の場とする。
	8 4人グループ(異年齢男女混合)での対話活動をする。【自己や他者との対話】	○ 他者との対話では，お互いに受容的な態度で関わり，他者からの肯定的な評価の場となるようにする。
	9 全体での話し合いをする。 【自己や他者との対話】	○ 全体での話し合いでは，教師が子どもの発言をよく聴き，発言と発言をつなぎ，子どもたちにもどしていく。
終末	10 学んだ内容項目や構成要素を踏まえて，自分との関わりで思ったことや考えたことをワークシートへ記述する。 【自己との対話】	○ 構成要素の理解を深めるとともに，自己の成長を実感し，自己を肯定的に評価する場となるようにする。
	11 教師の説話等を聞く。【自己との対話】	○ 子どもが，自己を肯定的に評価したり，他者から肯定的に評価されたりする場となるような説話等を行う。

7 検証授業の実際と考察

(1) 検証授業の実際

対象学年：5・6年生(複式学級) 5年生男子4名，女子4名，計8名	検証授業
6年生男子3名，女子5名，計8名	11月2日～12月11日

検証授業においては，『自尊感情』道徳学習)を展開し，道徳の時間で協同的な学びを生かした指導を取り入れる。『自尊感情』道徳学習)を，高学年(第5・6学年，複式学級)において道徳の時間の授業を全8時間と各教科等の授業を全10時間の計18時間(PTAバザー・校区駅伝は除く)を関連付けて実施した。実施にあたり次の視点をもって，取り組んだ。

【視点1】 自尊感情の七つの構成要素を取り入れ，内容項目間の関連を図った道徳の時間や各教科等の工夫

- 《留意点①》 『自尊感情』道徳学習)で使用する教具の工夫
- 《留意点②》 『自尊感情』道徳学習)のオリエンテーションの設定
- 《留意点③》 道徳の時間における自尊感情を育てる指導の工夫
 - 手立て① 構成要素を踏まえたねらいの設定
 - 手立て② 構成要素を踏まえた資料分析
 - 手立て③ 内容項目間の関連を図る工夫
 - 手立て④ 構成要素に焦点化する発問の工夫
 - 手立て⑤ 構成要素に焦点化する板書の工夫
 - 手立て⑥ 協同的な学びの工夫
 - 手立て⑦ 構成要素を育てる終末の工夫
- 《留意点④》 各教科等において自尊感情を育てる指導の工夫
- 《留意点⑤》 自己を肯定的に評価し，他者から肯定的に評価される場の工夫
- 《留意点⑥》 『自尊感情』道徳学習)の振り返りの時間の設定

【視点2】 協同的な学びを生かす道徳の時間の工夫

- 《留意点⑦》 協同的な学びの段階的な導入
- 《留意点⑧》 協同的な学びの授業形態

ア 教具の工夫【視点1】

『自尊感情』道徳学習」を展開していくにあたり、自尊感情に関する子どもの意識を継続させたり、自己を振り返ったりできるように教具を工夫する必要があると考えた。

(ア) 『自尊感情』道徳学習」マップの活用《留意点①》

<p>『自尊感情』道徳学習」マップとは</p> <p>『自尊感情』道徳学習」を効果的に展開するために、子どもたちに、これまでどんな学習をしたのか、今何の学習をしていて、これから何の学習をしていくのかを、確実に把握させる必要がある。そのために準備したものが、A3用紙六枚分の『自尊感情』道徳学習」マップである(写真1)。これを子ども一人一人に作成し、廊下に掲示し活用を図った。1か月に渡る授業の展開が分かるように日付と教科名等を示し、授業後、授業で使用したワークシートに教師がコメントを朱書きしたものを貼り付けていくようにした。そして、子どもが自分のことを振り返り、自己の成長を実感することで、自己を肯定的に評価する場となるようにした。</p>	
<p>道徳の時間の導入時に活用</p> <p>内容項目間の関連を図るために、道徳の時間の導入時に『自尊感情』道徳学習」マップを用いて前時までの振り返りをするとともに、内容項目のつながりを確認するようにした。また、自尊感情の七つの構成要素についても前時までに学んだものを振り返り定着を図るようにした(写真2)。</p>	
<p>道徳の時間の評価に活用</p> <p>授業後に、教師は評価としてコメントをワークシートに朱書きする。それをマップに貼り付け廊下へ掲示することで、これまでの学習を休み時間等に振り返ることができるようにした。このことで、自尊感情に関する子どもの思考や意識が途切れることなく、1か月以上に渡る学習を行うことができた(写真3)。また、子どもの考えや思いに対して肯定的なコメントを書くことで、他者からの肯定的な評価の場となり、授業の回を重ねるごとに、挙手をする子どもが増える様子にもつながった。</p>	
<p>『自尊感情』道徳学習」の振り返りの時間に活用</p> <p>1か月に渡る『自尊感情』道徳学習」の最後の振り返りの時間にこのマップを使用して、これまでの学習を内容項目の関連を図るとともに、自尊感情の七つの構成要素から学んだことを振り返ることができるようにした(写真4)。</p>	

(イ) 板書で使用する各種カードの活用(写真5)《留意点①》

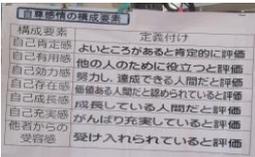
<p>「自尊感情構成要素」カード</p> <p>七つの構成要素名をカードにしたものを、オリエンテーション、道徳の時間の導入、道徳の振り返りの時間に、構成要素についての理解を深めることができるよう繰り返し使用した。</p>	
<p>自尊感情に関連する「領域」カード</p> <p>自尊感情に関連する「領域」である「自己」「家族」「仲間」「学校」をカードにしたものを授業の中で、必要に応じて使用した。</p>	
<p>「丸型自尊感情」カード</p> <p>道徳の授業で、七つの構成要素を子どもにとって分かりやすい言葉にしたものを板書に使用するようにした(表7)。</p>	

写真5 各種カードの実践例

表7 「丸型自尊感情」カードの内容

構成要素	自己肯定感	自己有用感	自己効力感	自己存在感	自己成長感	自己充実感	他者からの受容感
分かりやすい言葉	よさがある	人の役に立っている	達成できる	価値がある	成長している	がんばっている	受け入れられている
	よさがない	人の役に立っていない	達成できない	価値がない	成長していない	がんばっていない	受け入れられていない

(ウ) 自尊感情を評価の視点から捉えた図と七つの構成要素を定義した図の活用

自尊感情を評価の視点から捉えた図	七つの構成要素を定義した図
<p>自尊感情にとって大切な視点である、「自己から見た自分」と「他者から見た自分」についてのイメージ図を、道德のオリエンテーションや特別活動の時間等で、繰り返し活用した(写真6)。</p>  <p>写真6 自尊感情を評価の視点から捉えた図</p>	<p>七つの構成要素の定義を理解できるように、構成要素の定義について書かれた図を常時掲示するようにし、道德の時間や各教科等で使用し、説明を加えた(写真7)。</p>  <p>写真7 七つの構成要素を定義した図</p>

イ 『『自尊感情』道德学習』のオリエンテーションの設定【視点1】(留意点②)(p12表5『『自尊感情』道德学習』①の授業)

『『自尊感情』道德学習』を展開するにあたり、子どもたちが、自尊感情とはどういうもので、自尊感情の七つの構成要素とは何か、また、1か月に渡りどのような学習をしていくのかを認識していることが、効果的な学習を行うために必要だと考えた。そのために、最初の時間に道德の「自尊感情」に関するオリエンテーションの時間を設定した。

主題名「自尊感情を理解しよう」 道德のオリエンテーション		
ねらい	○ これから1か月に渡って行く『『自尊感情』道德学習』のオリエンテーションを行い、自尊感情とは、どのようなもので、どうすれば高めていけるのかを考えさせる。	
過程	<p>主な学習活動の流れと子どもの活動</p> <p>教師の発問 (T) 子どもの発言 (C) 子どもの記述 (◆)</p>	成果○と課題△
導入	<p>1 澤徳希選手の言葉を読み、澤選手の自信がどこからくるものなのか考える。</p> <p>2 自信＝自尊感情ということの説明を聞く。</p> <p>3 本時のめあてについて考える。</p> <p>写真8 導入の様子</p>	<p>○ 子どもにとっても関心の高い澤選手を自尊感情の高い人の例とすることで、自信のある人を子どもが具体的にイメージしやすくなった。</p> <p>○ 自尊感情を子どもが使い慣れている自信という言葉を使って説明することで、理解が図られた。</p>
	<p>4 子どもたちが「自尊感情」とはどんなものだと思うか、自由に考え(自己との対話)、4人グループで対話活動(他者との対話)を行う。</p> <p>○ 自分で考えたことをワークシートに書く。</p> <p>○ 4人グループでの対話活動を行う。</p> <p>○ 全体への発表を行う。</p> <p>写真9 他者との対話活動</p>	
展開	<p>T:「自尊感情」はどんなものだと思うか、自分の考えを発表してください。</p> <p>C:自分を信じること。</p> <p>C:立ち向かうこと。</p> <p>C:自分は絶対にできると思うことだと思います。</p> <p>C:やる気があることだと思います。</p>	<p>○ 自分の考えをもたせた上で4人での対話をしたことで、多様な意見が出た。</p> <p>○ 七つの構成要素を子どもの実態にあった具体例を出し説明することで、子どもたちが、構成要素についてのイメージをもつことができた。</p>
	<p>5 自尊感情の構成要素の内容について教師が、子どもが出した意見と照らし合わせながら説明するのを聞く。</p> <p>T:「自己肯定感」の意味が分かる人いますか?</p> <p>C:自分を否定しないこと。</p> <p>C:自分にはよさがある。自分を否定せずにいろいろすること。</p> <p>C:自分をよいと思うこと。</p> <p>写真10 七つの構成要素の説明</p>	

過程	主な学習活動の流れと子どもの活動 教師の発問 (T) 子どもの発言 (C) 子どもの記述 (◆)	成果○と課題△
展開	<p>6 自分たちの実態調査の結果から、どの構成要素を高める必要があるのかを考え、自尊感情を高めようとする意欲を高める。</p> <p>7 自尊感情を高めるためには、どうすればよいかを個人で考え（自分との対話）、4人での対話活動（他者との対話）をした後、全体で発表する。</p> <p>8 自尊感情を育てるために大切な、「自己を肯定的に評価する場」と「他者からの肯定的な評価をされる場」について教師が分かりやすく説明するのを聞く。小学生にとっての「重要な他者」である、家族、仲間、学校についての説明も聞く。</p>  <p>写真11 「重要な他者」の提示</p>	<p>○ 自尊感情を高めるためには重要な他者が必要だと認識させることができた。</p> <p>△ 扱った内容が多く、子どもが理解しきれなかったところがあった。</p>
終末	<p>9 1か月に渡る学習を示した『『自尊感情』道徳学習』マップを説明し、学習の見通しをもつとともに、意欲を高める。</p> <p>10 授業を受けての感想を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ワークシートの主な記述</p> <p>◆ 今日の授業をきっかけに、これからもっと自信（自尊感情）のある人になりたいと思った。自尊感情の中には、いろいろな種類があって、その一つ一つが大切だということが分かった。</p> <p>◆ 自信にはいろいろな種類があって驚いた。自信がつくためには、家族や仲間の協力が必要だと思った。</p> <p>◆ 澤穂希選手はすごいなと思った。自分ももっと自分に自信をもていきたい。自分にできることがあれば、自信をもって取り組みたいし、もっとたくさんのことに挑戦してみたいなと思った。やったことのないことに興味をもちたい。</p> </div>	<p>○ これからの学習に対して、見通しをもたせることができ、自尊感情を高めていきたいという意欲を高めることができていた。</p> <p>○ 「自信」について、様々な種類があるという言葉で、自尊感情は七つの構成要素で構成されていることを捉えることができていた。</p>

ウ 道徳の時間における自尊感情を育てる指導の工夫【視点1】《留意点③》(p12表5『『自尊感情』道徳学習』⑥の授業)

過程	主な学習活動の流れと子どもの活動 教師の発問 (T) 子どもの発言 (C) 子どもの記述 (◆)	成果○と課題△									
ねらい	<p>○ 主人公の「わたし」の心情を通して、生命の尊さを理解し、力強く生きようとする態度を育てるとともに、家族の幸せを願いつつ、その一員であることを自覚し、家族から受け入れられている気持ちを高めさせる。</p> <p>○ 家族から大切にされ、受け入れられている（他者からの受容感）や、自分はかけがえのない価値ある存在だ（自己存在感）、自分も人の役に立っている（自己有用感）を高め、自尊感情を高めさせる。</p> <p style="text-align: right;">【手立て①】</p>										
構成要素	<table border="1"> <tr> <td>他者からの受容感</td> <td>母から自分の出産の話聞き、母や家族から深く愛されているのを感じたところ。</td> <td>【手立て②】</td> </tr> <tr> <td>自己存在感</td> <td>母から自分の出産の話聞き、自分の命がかけがえのないものだと感じたところ。</td> <td>【手立て②】</td> </tr> <tr> <td>自己成長感</td> <td>無視をした友達には明日学校で話をすればわかることだと、考え方の転換を図っているところ。</td> <td>【手立て②】</td> </tr> </table>	他者からの受容感	母から自分の出産の話聞き、母や家族から深く愛されているのを感じたところ。	【手立て②】	自己存在感	母から自分の出産の話聞き、自分の命がかけがえのないものだと感じたところ。	【手立て②】	自己成長感	無視をした友達には明日学校で話をすればわかることだと、考え方の転換を図っているところ。	【手立て②】	
他者からの受容感	母から自分の出産の話聞き、母や家族から深く愛されているのを感じたところ。	【手立て②】									
自己存在感	母から自分の出産の話聞き、自分の命がかけがえのないものだと感じたところ。	【手立て②】									
自己成長感	無視をした友達には明日学校で話をすればわかることだと、考え方の転換を図っているところ。	【手立て②】									
資料	<p>主人公の「わたし」は、友達から仲間はずれにされ、もう死んでしまいたいほどの気持ちになる。心配する母から自分の出生時の話を聞き、家族の愛を感じる。家族から受け入れられていることを実感し、前向きに生きていく気持ちへと変わっていく。</p>										
過程	<p>1 『『自尊感情』道徳学習』マップや「自尊感情構成要素」カード、「領域」カードを使用して、前時の「生命尊重」の道徳で学んだことを振り返り、自己存在感を確認する。そして、かけがえのないあなたの命は、家族からきっと大切にされていることを聞き、内容項目間の関連を図る。</p> <p style="text-align: right;">【手立て③】</p> <p>2 特別活動で用いた「つながり地図」を使用し、自分にとって家族とは、どんな存在なのかを考えることで、本時で重点化して指導する「他者からの受容感」という構成要素を通して「家族愛」を考え、学習課題を設定する。</p> <p>3 本時のめあてについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分と家族はどんな思いでつながっているだろうか。</p> </div>	<p>○ マップを使い、学習の振り返りができ、「生命尊重」と「家族愛」の内容項目間の関連を図ることができた。</p> <p>○ 特別活動で用いた「つながり地図」を活用し、特別活動で、見つけた自分のことを本時で深く考えることができた。</p>									

過程	<p style="text-align: center;">主な学習活動の流れと子どもの活動</p> <p style="text-align: center;">教師の発問 (T) 子どもの発言 (C) 子どもの記述 (◆)</p>	<p style="text-align: center;">成果○と課題△</p>						
展開	<p>4 資料「母とながめた一番星」の範読を聞き、「わたし」の気持ちを中心に話し合いながら、「他者からの受容感」についても考えていく。 <u>※板書に大きさの異なる「丸型自尊感情カード」。</u>本時では、<u>他者からの受容感に関する「受け入れられている」「受け入れられていない」</u>を用いて、「わたし」の「<u>他者からの受容感</u>」がどのように変化していったのかを子どもたちが視覚的に捉えられるようにした。【手立て⑤】</p>  <p style="text-align: center;">写真 12 各種カードを生かした板書</p> <p>5 中心発問への考えをワークシートに記入した後、グループでの対話活動を行う。【手立て⑥】</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">T：母に、自分の誕生までの話を聞いた恵子はどんな気持ちだっただろうか？友達には受け入れられていなくて、辛い思いをしたけど、お母さんからはとても温かく受け入れられているね。【手立て④】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【ワークシートの主な記述】個人で記入（自己との対話）→4人グループでの対話活動（他者との対話）後の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ こんなにも母がわたしに命をかけるほど大切に思ってくれるなんてとてもうれしいな。愛されているんだな。→ 母がこれだけ苦しくても産んでくれたので、自分を大切にしないといけないな。 ◆ 私は、受け入れられているんだな。お母さんは、命をかけて私を産んでくれたから、もっと大切に命を守ろう。→ <u>明日からは、良子たちと仲良くしていこう。</u>自分は愛されているんだな。 ◆ お母さんは、わたしを産むために苦労したんだな。お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなにわたしは、愛されているんだ。→ <u>お母さんが産むのをあきらめていたら、わたしはいなかった。自分を大切に、お母さんのことも大切にしていこう。</u> </div> <p>6 全体へ自分の考えを発表する。</p> <p>7 今日の学習を振り返り、思ったり考えたりしたことを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【ワークシートの主な記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 恵子は、<u>今までお母さんに愛されていることに気が付いていなかったけど、仲間はそれを機会に、そのことに気付けたし、良子たちに聞く強い心をもてるようになったと思う。</u> ◆ 私は、この学習をして、自分が生まれて、すごくよかった。<u>私も母につつまれて生まれてきたんだなと思った。私も家族を受け入れる心をもって家族を大切にしていきたいです。</u> ◆ <u>仲間はずれやいじめにあったとしても決して自分は、誰からも受け入れられていない訳ではないんだと思った。</u>同時に、自分の命を大切にしていかなければならないとも思った。 </div> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">T：家族や友達から受け入れられていると感じられると、自尊感情は高くなりますね。 C：うれしくなって、きっと高くなります。</p>	<p>○ <u>受け入れられている</u>、<u>受け入れられていない</u>のカードを用いることで、主人公の「わたし」が友達から受け入れられていないことで自尊感情が下がることや、母から受け入れてもらえていることで自尊感情が高まっていることを、視覚的に子どもにとらえさせることができた。</p> <p>○ 「他者からの受容感」に焦点化した発問をすることで、子どもたちの意識を「重要な他者」に向けさせることができた。</p> <p>○ 友達との対話活動により、対自分という視点から対相手という視点への考え方の広がりがあった。</p> <p>△ さらに対話を深めさせるために、お互いの意見を練り上げていく学び方を子どもに身に付けさせる必要がある。</p> <p>○ 「他者からの受容感」を家族から仲間へと広げて考えている子どもを、意図的に指名し、深まった考えをクラスで共有することができた。</p> <p>○ 「私も母につつまれて生まれてきたと思う」など、「他者からの受容感」の大切さに気付いている記述が多くあった。</p> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">他者からの受容感に 関係する記述</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">あり</td> <td style="text-align: center;">なし</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">16人</td> <td style="text-align: center;">0人</td> </tr> </tbody> </table>	他者からの受容感に 関係する記述		あり	なし	16人	0人
他者からの受容感に 関係する記述								
あり	なし							
16人	0人							

過程	主な学習活動の流れと子どもの活動 教師の発問 (T) 子どもの発言 (C) 子どもの記述 (◆)	成果○と課題△
終末	<p>8 家族からの、子どもの誕生や成長の喜びを伝える手紙を各自読むことで、家族からの「他者からの受容感」を十分味わう。</p>  <p>【手立て⑦】 写真13 手紙を読む子どもの様子</p>	<p>○ 親からの自分への手紙を読み、家族、親から愛され、受け入れられていると感じている子どもたちの姿があった。涙を流す子どももいた。</p>

エ 協同的な学びを生かす道徳の時間の工夫【視点2】

(7) 協同的な学びの段階的な導入《留意点⑦》

「自己を肯定的に評価する場」や「他者からの肯定的な評価を得る場」となるために、協同的な学びを道徳の時間と各教科等に活用していく。協同的な学びの授業を体験したことのない子どもたちが活用しやすいように、二つの段階を考え、徐々に協同的な学びの中で、子どもが自分の意見を積極的に発言し、お互いの考えから主体的に学んでいくことができるようにしていく必要があると考えた。そこで、表8のような段階を考えた。

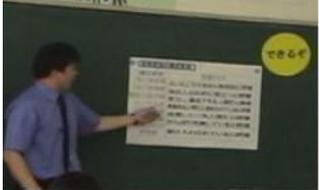
表8 協同的な学びの段階

段階	協同的な学び	検証授業Ⅱで実施した道徳の時間
ステップ1	資料等の各場面における主人公の心情を押さえながら進める従来の道徳学習に加え、授業形態として机をコの字型にするとともに、中心発問に対して、グループでの話し合いをする。	主題名「命の価値」 [3-(1) 生命尊重] (11/4) 資料名「妹の手紙」
		題名「家族に愛されて」 [4-(5) 家族愛] (11/11) 資料名「母とながめた一番星」
		主題名「友達と支え合う」 [2-(3) 友情・信頼、助け合い] (11/15) 資料名「心のレシピ」
		主題名「自分のよいところ伸ばす」 [1-(6) 向上心、個性伸長] (11/24) 資料名「うれしく思えた日から」
ステップ2	中心発問への子どもたちの主体的な対話により授業を展開する。教師は、子どもの意見をよく聴き、発言と発言をつないで、子どもたちにもどしていく。	主題名「希望をもって努力する」 [1-(2) 希望、勇気、不撓不屈] (11/30) 資料名「メジャーリーガー・イチロー」
		主題名「みんなのために」 [4-(4) 勤労、社会奉仕、公共心] (12/6) 資料名「堀之内良眼房」

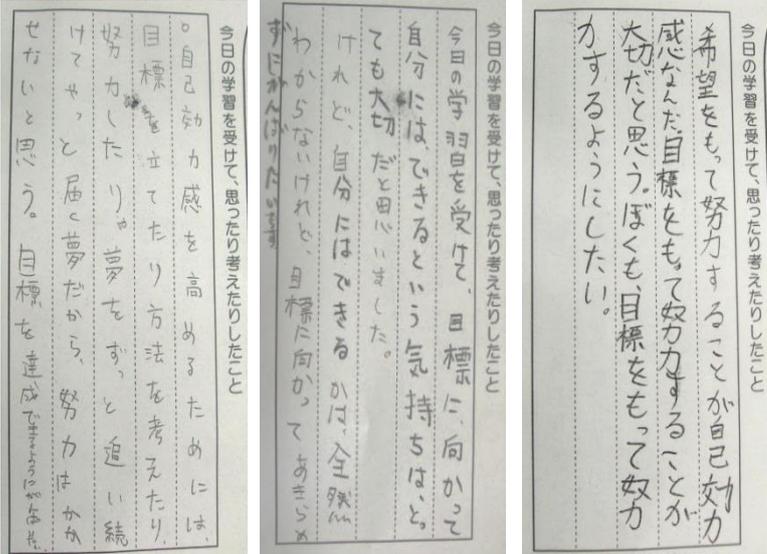
(イ) 協同的な学びの授業形態《留意点⑧》

【導入】【展開】	【展開・中心発問】	【展開・全体】【終末】
〔資料や自己との対話〕	〔自己や他者との対話〕	〔自己や他者との対話〕
導入場面や中心発問を一人で考える場面では、お互いの顔が見えるように、コの字型にすることでお互いのつぶやきがよく聞こえるようにする (写真14)。	中心発問に対して、一人で考えた後は、5, 6年男女一人ずつの異年齢、男女混合の4人の班を作り、話し合うようにする (写真15)。	班での対話が終了後、全体で対話をする時と、終末場面では、再度、コの字型にすることでお互いのつぶやきがよく聞こえるようにする (写真16)。
		
写真14 導入場面の様子	写真15 対話活動の様子	写真16 全体での対話の様子

(ウ) 協同的な学びを生かした道徳の時間【視点2】(p12表5『自尊感情』道徳学習⑫の授業)

主題名「希望をもって努力する」[1-(2)希望, 勇気, 不撓不屈]		
資料名「メジャーリーガー・イチロー」 みんなのどうとく 5年生 学研教育みらい		
ね ら い	<p>○ より高い目標を立てて、困難や失敗にもくじけることなく、常に希望をもって一歩一歩の努力を積み重ねて、その目標を達成していこうとする態度を育てる。</p> <p>○ 自分のよさを知り（自己肯定感）、それを伸ばして行くためには、やればできるという気持ちを（自己効力感）もって頑張ることと、それを支えてくれる周りの人（他者からの受容感）がいることに気付かせ、自尊感情を育てる。</p>	
過 程	主な学習活動	教師の主な発問（T）と子どもの反応（C） <small>~~~~中心発問 == 児童C1の思考の深まり □ 他者からの肯定的な評価 —— 内容項目間の関連に関する発言</small>
導 入	<p>1 前時で学んだ、「個性伸長」と本時の「希望, 勇気, 不撓不屈」の関連を図る。</p>  <p>写真17 内容項目間の関連を図っている様子</p> <p>2 イチローの実績やそれを支える自己効力感について考える。</p>  <p>写真18 イチローを紹介している様子</p> <p>3 「自己効力感」と「希望, 勇気, 不撓不屈」について確認をする。</p>  <p>写真19 自己効力感の確認をしている様子</p>	<p>T：前回の道徳の授業，何を勉強したか覚えている？</p> <p>C：自己存在感じゃなくて…</p> <p>C：自己肯定感。自己肯定感。</p> <p>T：そうそう，自己肯定感。男の子がいたよね。ソフトボールを40m投げた。</p> <p>C：はいはい。自己肯定感ですね。</p> <p>C：ああ，ああ，あー，それですよ。</p> <p>T：その男の子は，自分のよさを…</p> <p>C：見つけてなかった…けど…見つけて…</p> <p>C：自分のよさを見つけて，どんどん伸ばしていった。</p> <p>T：そう，伸ばしていったね。そして，将来は，イチロー。</p> <p>C：イチロー選手みたいになりたいと思っている。</p> <p>T：だよ。今日は，自分のよさを発見した彼が，イチロー選手みたいになりたいんだとしたら，何が大切で必要なのか，そういうことも考えてみてね。</p> <p>T：みんな，イチローってどんな人か知っている？簡単にいいよ。</p> <p>C：えっ，メジャーリーガー。</p> <p>C：バットとかグローブとか自分の物を磨いて大切にしている人。</p> <p>T：そんなことまで知っているんだ。</p> <p>C：きついで，努力してがんばっている。</p> <p>T：そうですね。あきらめずに目標に向かってがんばっている人です。</p> <hr/> <p>T：今日，勉強したいのは，自尊感情なんだけど，その中でも…</p> <p>C：自己成長感？</p> <p>T：これです。自己効力感を勉強しましょう。みんな，自己効力感ってどんな意味？</p> <p>C：自分はできるぞっていう気持ち。</p> <p>T：そうだね。自分の目標に向かって努力すれば自分はできるぞって思う気持ちが，自己効力感ですね。この表を見て確認しましょう。</p> <p>C：ああ。</p> <p>T：どうですかみんな。自分のことを，自分は，自分の目標に向かって努力をして，自分はそれを達成できる人間だって，自分はできる人間だって，思っていますか？</p> <p>C：うん，ちょっとは。</p> <p>C：そこまでではないかも。</p> <p>C：30パーセントぐらい思っている。</p> <p>T：自分，できるぞって，思っている気持ちの方が強いっていう人？</p>

過程	主な学習活動	教師の主な発問 (T) と子どもの反応 (C) ~~~~中心発問 ~~~ 児童C1の思考の深まり □ 他者からの肯定的な評価 ~~~ 内容項目間の関連に関する発言
導入	4 実態調査から自己を振り返る。  写真20 実態調査から自己を振り返る様子	T：実態調査をみると、みんなけっこう自分の目標に向かって努力ができてきているんだよね。すごいね。どんな目標に向かって努力している？ C：二重跳びをがんばっています。 C：リフティングしている。 T：料理を頑張っている人もいますね。 C：ああ、料理ね。がんばって。 T：みんなは、目標に向かってがんばっているんだけど、自分ではできるぞっていう気持ちがありませんか？もてないなあという人？
	5 本時のめあてを考える。  写真21 めあてを確認している様子	T：今日の道德の学習のめあては、何にする。 C：自己効力感を高めるためにはどうすればよいだろうか。 C：どうすればよいだろうか。便乗する。 C：そうそう、そのめあてがいい。 T：おお、自己効力感を高めるね。そうしようか。 C：せっかく〇〇君が、言ってくれたんだからそうしよう。 自己効力感を高めるためにはどうすればよいだろうか？
展開	6 資料「メジャーリーガー・イチロー」を読み、自己効力感について考える。 【対象との対話】	T： <u>イチローは、なぜ自己効力感を高めることができたのだろうか？</u> 【あるグループの対話活動】 C1：えっと、イチローは、自分の細い体で強いボールを飛ばすためには、体を鍛えないといけないことが分かっていて、 <u>自分の目標に向かってそれをかなえるためには、どうすればいいかが分かっている</u> ので、イチローは自己効力感を高めることができたんだなあと思いました。 C：ああ、目標ねえ。はい。僕は、野球に夢中になったところから、好きなものだったから、自己効力感を高められたと思いました。
	7 中心発問をする。 8 自分一人で考える。 【自己との対話】  写真22 自己との対話の様子 9 4人の班で話し合う。【他者との対話】  写真23 他者との対話の様子	C1： <u>うん、うん、確かに。好きじゃないとしない。</u> C1： <u>300球ぐらい打つというところで、目標のためには、どんなことでもするんだなあ</u> と思いました。イチローは。 C： <u>だよ。300球すごいね。</u> 目標、夢をかなえたい気持ちがあるから自己効力感を強くすることができた。 この発問に対し、初めに一人で考え、その後グループでの対話をしていく。 グループの対話の中で、相手の発言を受け止める様子が多く見受けられ、受け止められた子どもにとって、他者からの肯定的な評価の場となっていた。
10 全体で話し合う 【他者との対話】	【全体での話し合い活動】 C1： <u>わたしは、線を引いたのは〇〇君と同じですが、小学校の頃から夢をもって努力していたんだ</u> と思いました。 C：納得できるまで、ボールを打ち込んだのがすごいと思いました。 C1： <u>必ず自分で何かひとつ目標を立てて、それが成功したら、また他の目標を立てて、っていうことを繰り返しているから、いろいろなことがどんどんできるようになっていくんだ</u> と思いました。 C1の子どもは、「目標、夢」という視点で「自己効力感」、「1-(2) 希望、勇気、不撓不屈」についての思考を深め、自己の成長を感じ、自己を肯定的に評価する場となった。	

過程	主な学習活動	教師の主な発問 (T) と子どもの反応 (C) <small>〰中心発問 〰児童C1の思考の深まり □他者からの肯定的な評価 〰内容項目間の関連に関する発言</small>
展開	<p>10 全体で話し合う 【他者との対話】</p>  <p>写真 24 全体での対話の様子</p> <p>11 今日の学習を受け、 思ったり考えたりしたことをワークシートに書く。 【自己との対話】</p>  <p>写真 25 ワークシートに自分の考えを記入している様子</p>	<p>教師の主な発問 (T) と子どもの反応 (C)</p> <p>【全体での話し合い活動】</p> <p>T: では、自分の考えを発表してください。</p> <p>C: <u>打つことだけではなくて、守備も走塁も上手くなって、自分のいいところを増やして、自己効力感が高くなっていたのかなあと思いました。</u></p> <p>C1: <u>自分で立てた目標に向かっていくためにはどうすればいいのかわかっているのがすごいと思った。</u></p> <p>C: 学校から帰っても練習を積み重ねていると思いました。</p> <p>T: 練習を積み重ねていったのですね。イチローは練習を休んだことがありましたか？</p> <p>C: たぶんなかった。</p> <p>C: たぶんないと思う。よっぽどのことがないかぎり。</p> <p>C: 目標を立てることが、まず、目標を達成することの第一歩だと思いました。また、目標を立てて達成するのが好きなのがイチローはすごいと思いました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>前時の学習である 1-(6)「向上心、個性伸長」と結び付けて本時の課題を考えている。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>C1の子どもは、「目標、夢」という視点で「自己効力感」、「1-(2)希望、勇気、不撓不屈」についての思考を深め、自己の成長を感じ、自己を肯定的に評価する場となった。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>資料 1 主なワークシート</p>  </div>
終末	<p>12 担任からのメッセージをBGMとともに授業者が読むのを聞く。</p>  <p>写真 26 メッセージを聞いている様子</p>	<p>T: 担任の〇〇先生からのみなさん一人一人へのメッセージです。心で聞いて下さい。〇〇君は、サッカーは、上達するようにと自主練習をして、自分を高めるための努力を続けることができます。〇〇さんは、駅伝の前は、大会に向けて少しでも速くなるようにと家のまわりを走る努力家でとてもがんばっていましたね。〇〇さんは、絵を描くことが得意で、宅習なども絵で上手に表現してとても分かりやすくまとめるようにがんばっていますね。〇〇さんは、苦しい持久走の練習や難しい問題を解く時でも弱音を吐かず、黙々と取り組む事ができ、結果を出しています。</p> <p>T: みんなのがんばりを家族も担任の〇〇先生もよく見て気付いてくれていますね。自分にはできるぞ、という気持ちで自信をもってがんばってください。</p>

成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童C1を見てみると、「自己効力感」や「希望、勇気、不撓不屈」について、「目標、夢」という視点で、思考を深めていた。また、観察や聞き取りから、協同的な学びの場が、自己を肯定的に評価する場となっていたことが分かった。 ○ 協同的な学びによりお互いに自分の考えを認め合うことで、他者からの肯定的な評価の場となるとともに、思考が深まり、それを子どもが実感することで、自己を肯定的に評価する場にもなっていた。 △ 学級の子ども全員の考えが深まったか、自己の成長を実感できていたかを把握する手立てが必要である。 △ 子どもの対話がより活発になり、思考が深まっていくような教師の関わり方や発問について考える必要がある。
-------	--

エ 各教科等において自尊感情を育てる指導の工夫【視点1】

自尊感情を育てるために、各教科等においてもその各教科等の特質やねらいを大切にしながら、取り扱う構成要素を重点化した指導を行った。自己のよさを発見したり、お互いに他者と認め合ったりする場を設定することで、「自己を肯定的に評価する場」や「他者から肯定的に評価される場」となるようにした。

(ア) 特別活動における関連付け《留意点④》(p12表5『自尊感情』道徳学習②の授業)

教科、領域	特別活動
主題名	自分を知ろう、友達とつながろう
目標	自分のよさを見つめたり(自己肯定感)、友達や周りの人とのつながりを感じたりすること(他者からの受容感)で、自己を肯定的に捉えさせ、自尊感情を育む。
自尊感情の七つの構成要素を育てる学習活動	
1 「自分のなかのいろんな自分」というワークシートを書く。1人の人間の中に、「いろいろな気持ち」があり、「いろんな自分」がいることを発見し、受け入れる活動を行った。その後、いろいろな自分をグループで受け入れてもらう対話活動を取り入れた。	<ul style="list-style-type: none"> ○ どんな自分も大切な自分であること、どの「自分」も大切にできるとよいことを感じる事ができた。 ○ 「つながり地図」を書くことで、今まで気付かなかった他者とのつながりに気づき、感謝の気持ちをもつようになっていった。 △ 「つながり地図」を書く時間を十分に確保できなかった。
2 自分がいろいろな「つながり」の中で生きていることに気付かせるために、「つながり地図」を書かせた。また、自分が書いた「つながり地図」をグループの他者から受け入れてもらう対話活動を取り入れた。	
主な感想の記述	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自分の中のいろんな自分を思い出してみると、たくさんあった。友達のこと、もっと深く知れたからよかった。つながり地図で、こんなに大切な人やものがあってふやしたい。 ◆ 自分自身、家族、仲間、学校はみんなつながっていることが分かった。これからつながりをどんどん作っていきたい。 ◆ 私は、自分のいろんな自分で、こんな自分があるんだなあと思った。そして、つながり地図では、自分の好きな場所、食べ物とか、他には、友達、家族とか全部つながっていると思った。 ◆ わたしは、どんな自分も好きになれたらいいな、と思った。また、もっともっと人とのつながりを大切にしていき、増やしたいなと思った。



写真27 つながり地図を記入している様子

(イ) 総合的な学習の時間における関連付け《留意点④》(p12表5『自尊感情』道徳学習⑩の授業)

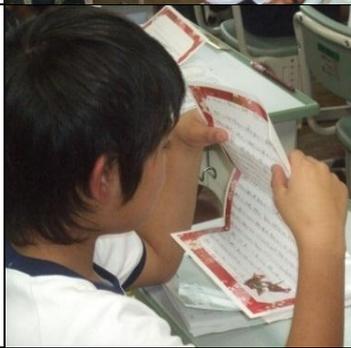
教科、領域	総合的な学習の時間
単元名	人権月間 自分のことをもっと知り、仲間のよさを見つけよう。
目標	人権月間の取組を生かしながら、自己や友達を見つめ、お互いのよさ(自己肯定感)を発見し、認め合うこと(他者からの受容感)で、自己を肯定的にとらえさせ、自尊感情を育てる。
自尊感情の七つの構成要素を育てる学習活動	
1 人権月間と『自尊感情』道徳学習の取組を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人権月間で家族や友達、先生に対しての率直な自分の思いを綴ってきている。その内容と自尊感情の七つの構成要素を関連させて授業を行うことができた。 ○ 「わたしの宝もの」や「クラスの中の自分」、「いいところ川柳」で書いた内容を友達同士、お互いに伝えあうことで、自分のよさを発
2 自分の大切にしているものを見つめ、自分のよさに気付くために「私の宝もの」をワークシートに各自書き、4人グループで対話活動を行う。	
3 自分や友達の個性やよさに迫っていくために、「クラスの中の自分」をワークシートに各自書き、4人グループで対話活動を行う。	

自尊感情の七つの構成要素を育てる学習活動		成果○と課題△
4 お互いのよさを認め合い、伝えあうために、「いいとこ川柳大会」を行い、班の向かい合っている友達のいいところを見つけ、川柳にして詠んで伝える。	5 学習を振り返っての感想を書くとともに、『『自尊感情』道徳学習』マップを使用し、次の時間への意欲を高める。	見するとともに、友達から自分のことを肯定的に評価してもらえ場となった。 △ 授業の中で、グループ以外の友達の考えや思いを聞く機会を作る必要がある。
主な感想の記述	◆ クラスの友達や自分のよさを見つける事ができた。これからは男女関係なく、仲良くしようと思った。楽しかった。	
	◆ 自分のよさや友達のよさを見つけて、いいとこ川柳を書いて楽しかった。これからも、もっとたくさん自分のよさや友達のよさを見つけていきたいと思った。	
	◆ 自分と友達のよさが違ったり、他者からの受容感もあったりしました。これからも自分のよさを出したり、友達のよさを見つけれたいです。	
	◆ 今日の授業で自分のことや友達のよさを見つめてみたら、自分にはたくさんの宝物があり、友達の持ち味があった。一人の人にたくさんのいい所があってびっくりした。	

オ 終末の工夫【視点1】《留意点⑤》

自己を肯定的に評価する場や他者から肯定的な評価をもらう場となるように、内容項目や構成要素を考慮して終末の場面の工夫を行った

(※ 表内の○の数字は、p12表5『『自尊感情』道徳学習』の番号と対応。)

扱った内容項目	工夫	授業の様子(写真28)
3-(1)生命尊重 ③	【命に関する紙芝居の読み聞かせ】 自己存在感を育てる授業を内容項目「3-(1)生命尊重」で実施した際、幼くして命を病気で失う男の子の話を紙芝居で読み聞かせを行い、命の価値に迫らせ、自己の命のかけがえのなさを感じ自己を肯定的に評価する場となった。	
4-(5)家族愛 ⑥	【一人一人への保護者からの手紙】 自己存在感を育てる授業を内容項目「4-(5)家族愛」で実施した際、子ども一人一人に保護者からの心のこもった手紙を渡し、読む時間を設定した。保護者には、手紙を書く際の視点をお願いした上で書いてもらうことで、授業者の意図が反映されるようにすることと、内容に極端な個人差が出ないようにした。どの子どもも嬉しそうに手紙を読み、「何か辛いことがあったら、また読もう。」という言葉が見受けられ、保護者から温かく受け入れられていることを感じており、自尊感情を育てることにつながることができた。	
2-(3)友情・信頼、助け合い ⑦	【授業者の小学校の卒業アルバムの使用と詩の読み聞かせ】 自己成長感を友達とのつながりの中で育てる授業を内容項目「2-(3)友情・信頼、助け合い」で実施した際、授業者の小学校に友達と友情を育んだ様子を、卒業アルバムを用いながら話をした。その後、谷川俊太郎の「ともだち」の読み聞かせを行った。友達を多面的に捉えることができるとともに他者からの肯定的な評価を感じ、温かい気持ちにさせることができた。	
1-(6)向上心、個性伸長 ⑩	【担任から一人一人へのメッセージ】 自己肯定感を育てる授業を内容項目「1-(6)向上心、個性伸長」で実施した際、担任が子どもの一人一人のよさを記述したものを授業者がBGMとともに読んで伝えることで、嬉しそうな子どもの姿や授業後、「先生が、みんなのよい所を見てくれるんだなと思って嬉しかった。」という言葉が見受けられる等、他者からの肯定的な評価の場となり、子どもの自尊感情を育てることができた。	
1-(2)希望、勇気、不撓不屈 ⑫	【子どもたちが頑張る姿の映像】 自己効力感を育てる授業を内容項目「1-(2)希望、勇気、不撓不屈」で実施した際、子どもたちが努力し、がんばっている姿の写真を映像で流した。子どもたちは、自分が努力している姿を見て、これから目標に向かってあきらめずに努力していこうという気持ちになると同時に、自己の肯定的な評価の場となっていた。	

4-(4)勤労, 社会奉仕, 公共心 ⑬	<p>【子どもの映像や東北の震災後の写真】</p> <p>自己有用感を育てる授業で内容項目「4-(4)勤労, 社会奉仕, 公共心」で実施した際, 朝のボランティアや委員会活動などに責任をもって取り組んでいる写真を映像として流すとともに, 自分たちがしている活動が, 学校のためだけでなく, 校区, 伊佐市, 日本, 地球のためになるということをスライドに映した写真を説明して気付かせ, 自分たちの活動に意味付けを行ったことで, 自己を肯定的に評価する場となった。</p>	
-------------------------	---	---

カ 「『自尊感情』道徳学習」の振り返りの時間【視点1】《留意点⑥》(p12表5『自尊感情』道徳学習⑯の授業)

1か月に渡る『自尊感情』道徳学習の最後の時間に, これまでの学習を振り返る時間を設定した。『自尊感情』道徳学習マップを各自見ながら, 道徳の時間及び各教科, 領域等, 行事を振り返る時間となるとともに, 自己の成長を実感する時間となった。

主題名「自尊感情の学習を振り返ろう」 道徳の振り返りの時間		
ねらい	「『自尊感情』道徳学習」の最後の時間に, これまでの学習を振り返る時間を設定した。「『自尊感情』道徳学習」マップを各自見ながら, 道徳の時間及び各教科等で学んだことを振り返ることを通して, 自己の成長を実感し, 自己を肯定的に評価する場とすることで, 子どもの自尊感情を育てる。	
過程	<p>主な学習活動の流れと子どもの活動</p> <p>教師の発問 (T) 子どもの発言 (C) 子どもの記述 (◆)</p>	成果○と課題△
導入	<p>1 1か月に渡る「『自尊感情』道徳学習」を振り返ろうとする関心をもつ。</p> <p>2 本時のめあてについて考える。</p> <div data-bbox="351 896 1141 963" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自尊感情の学習について振り返ろう。</p> </div>	○ 『自尊感情』道徳学習マップの使用で学習を振り返る意欲が高まった。
展開	<p>3 自尊感情と七つの構成要素について再度確認する。</p> <p>4 自己評価と他者からの評価について確認する。</p> <p>5 「重要な他者」と五つの領域を確認する。</p> <p>6 内容項目間の関連を図りながら, これまで道徳の時間で使用した挿絵を用いながら振り返る。</p> <div data-bbox="331 1120 1149 1366">  <p>写真 29 「『自尊感情』道徳学習」の振り返りの板書</p> </div> <p>7 「『自尊感情』道徳学習」マップを各自見ながら, 自尊感情について学んだり考えたりしたことを自由記述で書く。</p> <div data-bbox="790 1400 1093 1545">  <p>写真 30 「『自尊感情』マップでの振り返りの様子</p> </div>	<p>○ 「自尊感情構成要素」カードや「領域」カード, 道徳の時間で使用した挿絵を『自尊感情』道徳学習マップと用いることで, 子どもの思考をつなぎ直し, 効果的な振り返りを行うことができた。</p> <p>○ 自尊感情の学習を振り返っての自由記述では, 自尊感情について深い思考がなされていた。</p> <p>△ 自由に記述する時間を十分に確保できなかった。</p>
終末	<p>9 「『自尊感情』道徳学習」を振り返っての教師の感想を聞くとともに, 学習発表会へ向けて自信をもてるように気持ちを高める。</p>	○ 学習発表会への意欲を高められた。

ワークシートの主な記述

- ◆ 最初の道徳では, すごくまはやかに自尊感情を考えていたけど, たくさん学んで, 今では, 自尊感情の七つの大切な感情についてくわしく真剣に書くことができるようになった。
- ◆ 自尊感情の授業を受けて, 自分の価値に気付き, 一生懸命に生きることを知った。ぼくは他者からの受容感を勉強したとき, とても家族から愛されていることを知った。
- ◆ 私は, 1か月を振り返って, 自分は自尊感情を高められていると思った。家族, 仲間は自分のとても大切な一部だと思った。自分からみた自分をあまり好きになれないけれど, 自分を好きにならなければならないといけないと思った。

8 自尊感情に関する二種類のアンケートに答える。
※ (『自尊感情』道徳学習)の実施前に行った実態調査と同じ内容のアンケート)

○ 自尊感情のアンケートに答えることで, 子どもが自己の成長を感じられた。

(2) 検証授業の前後における子どもの変容の分析と考察

ア 実態調査から

七つの構成要素全てにおいて、検証授業後、すなわち『自尊感情』道徳学習の実施後、数値の上昇が見られた(図13)。重点的に指導を行った「自己有用感」、「自己肯定感」は上昇したが、「他者からの受容感」は上がったもののわずかにとどまった。ワークシートへの記入においては、家族や友達から受け入れられているといった記述が多く見られるものの、質問紙には反映されていないことが考えられる。

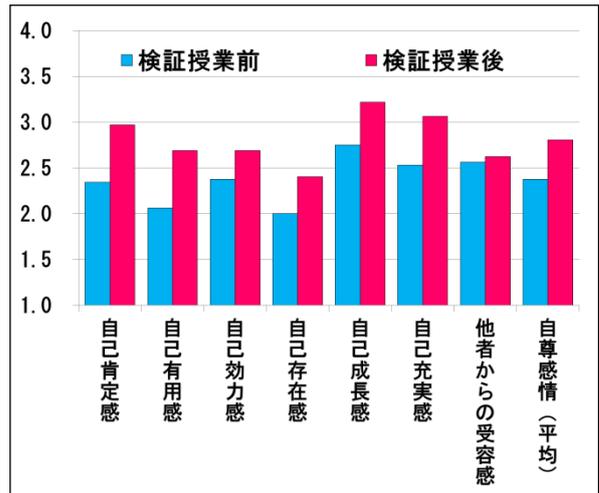


図13 構成要素の変容 (本校5・6年生)

また、選択項目ごとの人数の変容の結果を見てみると、どの構成要素においても「ぜんぜん思わない」という1と「あまり思わない」という2を選択していた子どもが、どの構成要素でも減少し、自尊感情の底上げを図ることができた。一方、ほとんどの構成要素で「とても思う」の4を選択する子どもが増えた。一人でも、自信をもって、「とても思う」を選択した子どもが増えたことはこの研究の願いであり、大変重要なことである。「自己効力感」が減少し、「自己成長感」と「他者からの受容感」は現状維持にとどまった。自尊感情の高い子どもをさらに伸ばして行く手立てを考えていく必要があると言える。「まあまあ思う」の3と「とても思う」の4をまとめて考えると、全ての構成要素で増加が見られたことから、『自尊感情』道徳学習を行ったことで、子どもの自尊感情の高まりへとつながったと考えられる(図14)。

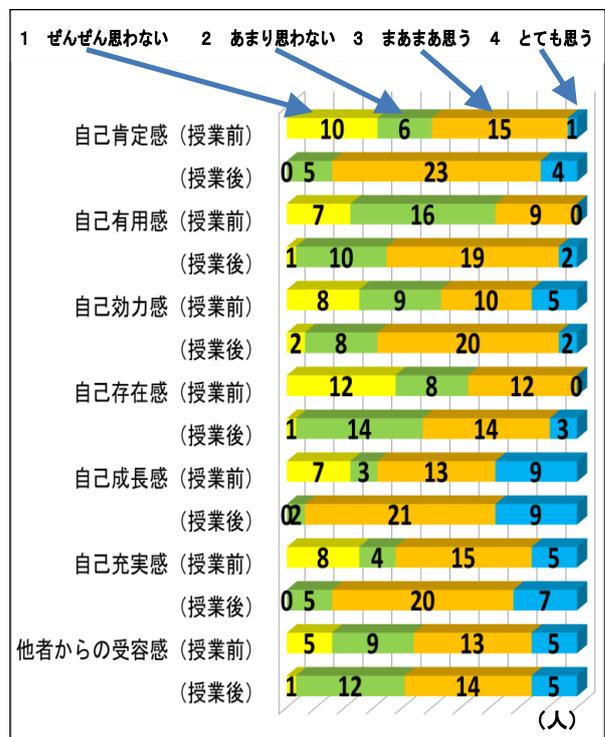


図14 選択項目ごとの人数の変容 (本校5・6年生)

イ 子どものワークシートの内容 (〃は七つの構成要素に関する記述、表内の〇の数字は、p12表5『自尊感情』道徳学習の番号と対応。)

道徳の時間 各教科等	A児(5年女子児童)	B児(5年男子児童)	C児(6年女子児童)	D児(6年男子児童)
道徳オリエンテーション ・七つの構成要素 ①	私は自尊感情が無いと思っていたけど、自尊感情を高める方法を考えてこれから取り組んでいきたい。私も澤穂希選手みたいに自尊感情もちたい。	自尊感情を高めるために、自分を信じ、やる気を出して、絶対に何でもできると、思おうと思った。自分を好きになりたいです。	澤さんは、自分にすごく自信があって、すごいと思った。自己肯定感とかいろいろあったけど、どれも大切だと思った。	これからの生活では、自信(自尊感情)をもてるように努力してがんばりたいと思った。特に、他者からの受容感と自己効力感をもって生きていきたいと思った。
特別活動 ・自己肯定感 ・他者からの受容感 ②	つながり地図をもっと書きたい。自分の中にはいろいろな自分があるんだと思った。グループの話合いで友達のことも知ることができたのでよかった。	つながり地図で、僕は、友達、家族、好きな食べ物、好きなスポーツを書いて、家族や友達に支えられていることが分かった。	自分の中のいろんな自分で、本当の自分が見えた。つながり地図、他校の友達を10以上書いて、自分は、中学校でも楽しく過ごせると思った。	自分がどんな人や物と一番つながりがあるのかを地図にかいた。もっと、自分のいいところを増やして、他者から認めてもらいたいと思った。

道徳の時間 各教科等	A児（5年女子児童）	B児（5年男子児童）	C児（6年女子児童）	D児（6年男子児童）
3-(1)生命尊重 資料名「妹の手紙」 ・自己存在感 ・自己有用感 ・他者からの受容感 ③	当たり前だと思っていたことが、学習して、「生きる」や「命」は当たり前じゃないことが分かった。私もこの主人公の妹みたいにぜんそくをもっていて苦しいけれど、もっと重い病気の人でもがんばっているの、私でもがんばりたいと思った。	生まれたことに感謝し、命を大切にしなければならなかった。どんな命にもすばらしい価値があるので、僕は、命をもっと大切にしようと思ったし、自分の命も価値があると思おうと思った。	星野さんの詩や絵を見た人は、みんな命をとっても大切にしていると思う。自分が自分の価値に気付いていないだけで、どんな人にもすばらしい「生きる価値」があるから、いつまでも下を向いてはだめだと思った。	ぼくも、命ということについて改めて深く考えることができた。命をそまつにするということは、自分何か死んでもいいやという考えと一緒にだと思った。自分自身の命を大切にしていきたいとすごく思った。
4-(5)家族愛 資料名「母とながめた一番星」 ・他者からの受容感 ・自己有用感 ・自己存在感 ⑥	私も家族や友達からも受け入れてもらえていると思えるようになってほしい。もし、仲間外れにされたときは、受け入れてくれる人がいれば、仲間外れにされたことも小さくなるんだなと思いました。	僕は、あまり友達に認められることはないけど、たまに、生まれてこなければよかったと思うことがある。でも、僕のお母さんががんばって生んでくれたし、家族のみんなから愛されていると思うから、命を大切にしたい。	主人公のけい子は、今まで、お母さんたちに愛されていることに気が付いていなかったけど、仲間外れを機会に、そのことに気付けたし、自分を仲間外れにした友達と話をする強い心をもてるようになったと思う。	ぼくも家族にこんなに愛情で包んでもらっていたと分かった。ぼくも父、母から得た命を一生懸命に大切にしたいと思った。家族をもっと大事にしたいと思った。
2-(3)友情・信頼、助け合い 資料名「心のレシーブ」 ・自己成長感 ・自己肯定感 ・自己充実感 ・他者からの受容感 ⑦	これから、主人公の良夫みたいに自己成長感と自己充実感を高めたい。そのためには、金銭的なことを見付けて、それに、一生けん命に取り組もうと思った。家族や仲間をこれから大切にしていこうと思った。	僕は、友達があまりできなくて、いやだなあと思うけど、その友達が、もっとやる気を出して、がんばろうと思ってもらえるように、その友達に協力してあげようと思う。	わたしは、友達に、協力したり、信じたり、全部分かったり、応援したりできていない。だから、これからは、友達に協力したり、信じたり、全部分かってあげたり、応援したりしてあげたい。	直希君は、友達の良夫君を大切にしていたから、僕も友達を大切にしてお互いに、分かち合えるようになりたいと思った。今日の学習を受けて改めて思いました。
1-(6)向上心、個性伸長 資料名「うれしく思えた日から」 ・自己肯定感 ・自己成長感 ・他者からの受容感 ⑩	自分のいいところを見つけて、いいところをのばして、自己こういてい感を高めて、自尊感情をのばしていきたい。よさがだれにでも一つはあることを知った。	ぼくは、サッカー一部に入っていて、自分でやると決めたし、自分のよいところだから、あきらめずに、目標をもって、自分のよいところをのばしていきたいと思う。	「自分のよさをのばそう。」という気持ちや、「自分はもっとやれる。」という気持ちもち、自分の目標をしっかりとつことが大切だと思った。「まわりの人の役に立とう。」という気持ちも大切だと思った。	今日の学習を受けて、自分のよさを高めるためには、ぼくは、やる気だと思えます。それは、やる気がないと何もできないからです。もっと自分に自信をもってよさを伸ばしていきたいと思った。
総合的な学習の時間 ・自己肯定感 ・他者からの受容感 ⑪	いいとこ川柳で、交かんしてみた時に、私にはいいところがあるんだなと思いました。もっといっぱい書きたいことがあって、私には、宝物がたくさんあるんだなと思いました。	自分のよさや友達によさを伝えることができた。いいとこ川柳は、あまり上手に書けなかったけど、自分の宝物もあったのでよかったです。	自分や友達によさに気付く表に全員の名前が入ってよかった。いいとこ川柳を書くのが楽しかった。色々な人の長所特長が分かった。川柳を書いてもらってうれしかった。	今日の授業を受けて、友達によさを改めて分かった。自分のよさも前よりも出ていたので、自分には「よさ」がある、という気持ちが高まった。
1-(2)希望、勇気、不撓不屈 資料名「メジャーリーグ・イチロー」 ・自己効力感 ・自己肯定感 ・他者からの受容感 ⑫	自分ではできると言うことを見付けてのばしていこうと思いました。でも、できないと思うこともできると思うことに変えられるようにしたいと思いました。	僕もサッカー一部に入っているの、努力することや自分ではできると言うことの大切さがよく分かります。だから、僕も努力を続け、サッカーでもっとシュートを決められるようになりたいです。	自己効力感を高めるためには、目標を立てたり、方法を考えたり、努力したりすることが大切だと思う。夢はずっと追いついてやっとなら、努力は欠かせないと思う。目標を達成できるようにがんばりたい。	自分でも目標を立てて、その目標に向けて努力して、自分を信じていくことを生活に生かしていきたい。目標を達成しても、新たな目標を立ててがんばりたいです。
4-(4)勤労、社会奉仕、公共心 資料名「堀之内良眼房」 ・自己有用感 ・自己効力感 ・他者からの受容感 ⑮	自己有用感を高めるためには、自分にできる事で人のためになることを考えてやってみる。他者からの受容感を高めるには、良眼房みたいな気持ち大切だと思えます。自己効力感を高めるためには、達成できることを考えていきたい。	僕だったら、良眼房みたいに、何度も何度もお願いをしないで、すぐあきらめていたと思う。でも、すぐにあきらめずに、がんばるぞ、という気持ちもち続け、やりとげることが大切だと思った。	自分が人の役に立つぞという気持ちが、みんなのために一生懸命になって、他の人のために働くことのできる心をもつために、必要だと思った。	自己有用感、自己効力感、他者からの受容感のことがよく分かった。この三つ以外の構成要素をふくめて、この気持ちを高めていきたい。みんなのためにがんばること、いいことだとすごく感じた。ぼくもみんなのために役立っていきなりたいと思う。

道徳の時間 各教科等	A児（5年女子児童）	B児（5年男子児童）	C児（6年女子児童）	D児（6年男子児童）
体育（高跳び） ・自己効力感 ・自己有用感 ・自己成長感 ・他者からの受容感 ⑩	前より跳べなくなっ たけど、がんばりたい です。ユツを知って自 己ベストを出したい です。もっと跳べる ようになって自尊感 情を高めたい。	僕は、足のけがをし ていたけど、やりまし た。高とびのパーが 棒ではなくてゴムだ ったので自信をもっ てできました。いつ もより楽しかった です。	前の授業でも1m跳 べたから、跳べと思 っていたから1m跳 べました。「1・2・3」 で跳ぶ練習も楽しく できてよかったです。 また、がんばりたい です。	高跳びをして、ぼく は、自己ベストを出 すことができました。95 センチを100センチ に変えたからです。自 分の自尊感情を高め ることができました。
道徳の振り返り の時間 ・七つの構成要素 ⑪	<u>自尊感情は決して高 められないことはない けれど、すぐには、の びもせず、少しずつ 高められるのが分か った。「つながり地 図」を書いた時は、 自分は、一人ではな いことを改めて知っ た。「母とながめた一 番星」では、お母さん から手紙をもらって、 その中身を見たら感 動しました。駅伝で は、苦しかったけど 1km走りきったので 自己成長感を高めら れたと思います。</u>	1か月前は、自尊感 情のことがあまり分 らなかったけど、自 尊感情を高めるため にはどうすればよ いか、ということ を、自分なりに考 えることができました。 周りには、こんな に自分を支えてくれ る人がいることが 分かりました。生ま れたことや家族に感 謝して命を大切に したいです。友達 は、これからいっ ぱい一緒にすごす 仲間だから、今 まで以上に、仲 良く協力できるよ うになりたいです。	最初は、自尊感情 の中にもたくさんあ って、大変そうだと 思ったけど、1か 月学習してきた けど、自尊感情の中 の全てをもっている 人になりたいと思 った。自尊感情の中 には、自分のこと だけではなく、「他 者からの受容感」が 入っていて、自分 のことだけでなく、 重要な他者「家族、 仲間、学校、自分」 はもちろん、それ 以外の人の役に立 ち、社会のために つくせたらいいと 思った。	今までの考えは、「 恥ずかしい、自信 がない」などの気 持ちだったけど、 この1か月間で学 んだことで、考え が、「間違えても大 丈夫、自信があ る」と思うよう になりました。家 族、友達、学校の 先生との関わり をもっと増やして いきます。家族 には感謝してい ます。家族、友 達、先生の大切 が分かりました。
ワークシートの 記述の変容に 関する考察	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業で扱った七つの構成要素が記述にあるとともに、前時に学んだ構成要素も交えながら記述しており、意識や思考のつながりがある。 ○ 他の道徳の授業でも、前時に扱った内容項目を踏まえての内容が書かれてある記述が見受けられ、内容項目間の関連を図って実践した効果があったといえる。 ○ どの子どもも自尊感情を自己の中だけで高めるのではなく、家族や友達など、他者との関わりを大切にしなければならないことに気付き、「他者からの受容感」の重要性への意識の深まりが感じられる。また、社会にまで視点を広げて考えられている子どももいる。 ○ どの子どもも自尊感情の大切さを深く理解し、前向きに生きていこうとする姿が見受けられる。 			

ウ 『自尊感情』道徳学習』指導計画』についての成果と課題

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自尊感情の七つの構成要素を考慮した『『自尊感情』道徳学習』を計画し展開することで、「もっと家族や友達から認められる人になって他者からの受容感を高めていきたい。」や、「自分は、もっと努力して自己効力感を強くして自信をもちたい。」などの記述が、授業のワークシートに見られた。 ・ ワークシートに書かれてあることから、どの子どももその時間にねらいとする自尊感情の構成要素について深く学んでいることが分かった。また、『『自尊感情』道徳学習』を通して、子どもたちが、自分とはどんな人間なのか、自尊感情とはどんなものなのか、他者とのつながりを大切にしていきたいなどの気持ちが育ってきていた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科等や行事において扱う構成要素の分析が不十分だったため、要となる道徳の時間との関連を十分には図られていないところがあった。

エ 【視点1】についての成果と課題

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『『自尊感情』道徳学習』マップを道徳の時間の導入時に使用することで、内容項目間の関連を図ることができ、複数の内容項目で自尊感情の構成要素を補いながら指導することができた。その結果、「命って大事だし、自分の命も家族から宝物みたいにされている」といった「生命尊重」と「家族愛」とを関連させた子どもの発言や、「自分のよさを見つけたら、目標を作って伸ばしていくことが大切だと思う。その目標を達成したら、すぐに新しい次の目標をもつことも大切だと思った。」といった「向上心、個性伸長」と「希望、勇気、不撓不屈」とを関連させたワークシートへの記述があった。 ・ 『『自尊感情』道徳学習』マップなどの使用により、休み時間、学習したことを思い出すことができ、「この前は、イチローから自己効力感について学んだ。」や「家族からの手紙を読んで、自分も大切にされていると感じて、他者からの受容感があった。」などの発言があり、子どもたちが構成要素について前後の授業のつながりを意識しながら
----	---

成果	<p>自尊感情を効果的に高めることができたと考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初のオリエンテーションの時間を設定したことで、子どもも教師も見通しをもって学習を進めることができた。また、『自尊感情』道徳学習の振り返りの時間を行うことで、子どもたちに育ってきた自尊感情をより確かなものとするとともに、これから、子どもたちが自尊感情を育て、前向きに自信をもって生きていきたいという意欲や思いを高めることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ひとつの資料に複数の構成要素が絡んでくるので、構成要素の焦点化や扱いが難しい場合があり、指導が十分にできない場合があった。 今回の検証授業で扱えなかった内容項目の関連をどう図っていくか、具体的な実践を積み重ねていく必要がある。 自尊感情の七つの構成要素を「自己肯定感」、「自己有用感」など定義したそのままの言葉を子どもたちへ使用したが、「よさがある」、「人の役に立つ」など「丸型自尊感情」カードで使用したような子どもたちが理解しやすい言葉のものを使用する必要がある。

エ 【視点2】 についての成果と課題

成果	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間に協同的な学びを取り入れることで、子どもが友達から学んだり、友達から認められたり友達を認めたりする場を確保することができ、自尊感情を育てることにつながることもできた。その結果、「もっと自分のよさを友達に知ってもらいたい。そして、自分も友達のよさをもっと発見していきたい。」という記述があったり、最初は、挙手をして発言することが全くなかった子どもが、自信をもって発言したりする姿を見せるようになった。 道徳の振り返りのワークシートには、「友達や家族とのつながりをこれからもっと大切にしていきたい」という、他者との関係の重要性を意識する子どもの姿が多くあった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの対話の分析が不十分であり、どういう対話がなされると、学びが深まったといえるのか、どの言葉をきっかけに学びが深まっていったといえるのか、など詳細な分析を行い、明らかにしていく必要がある。 子どもの主体性を大切にしながらも、対話が深いレベルで行われたり、促進されたりするような教師の関わり方や発問の在り方を明らかにする必要がある。

IV 研究のまとめ

1 研究の成果

- ア 『小学校学習指導要領解説 道徳編』や先行研究、諸文献を通して、道徳教育の目標など基本的なことから、これまでの道徳教育の変遷や今日的課題等についての理解を深めることができた。
- イ 自尊感情と道徳教育との関連を明らかにし、自尊感情の定義付けや構成要素についての分析を行うことで、今日的課題の解決に向けての道徳教育の在り方を探ることができた。
- ウ 自尊感情を育てるのに必要な内容項目の関連を図った『自尊感情』道徳学習を展開することで、子どもの自尊感情を複数の内容項目から指導することができ、七つの構成要素をバランスよく育てることができた。
- エ 自尊感情の七つの構成要素とそれに関わる内容項目の分析を基にして、資料分析や発問の工夫、板書の工夫などを行うことで、自尊感情を育てるための効果的な指導を行うことができた。
- オ 協同的な学びを生かすことで、道徳の時間が、自己を肯定的に評価する場や他者からの肯定的な評価をされる場となり、自尊感情を育てるのに有効であった。

2 今後の課題

- ア 自尊感情を育てるために、発達段階を踏まえ、小学校6年間を長期的に見通した『自尊感情』道徳学習を計画し、継続した指導を行っていく必要がある。
- イ 自尊感情を育てるための協同的な学びにより、子どもの対話や思考が一層効果的に促進されるように、子どもの発話、教師の関わり方や発問について、更に詳しく分析を行う。
- ウ 子どもの自尊感情を育てるために、「重要な他者」である家庭や地域との連携を更に行っていく必要がある。

＜引用文献＞

- | | | | |
|------------------|--|-------|--------------------------------|
| ○ 文部科学省 | 『小学校学習指導要領解説 道徳編』 | 2008年 | 東洋館出版社 |
| ○ 梶田叡一 | 『自己意識の心理学』 | 1988年 | 東京大学出版会 |
| ○ 遠藤辰雄・井上祥治・蘭千壽編 | 『セルフ・エスティームの心理学 自己価値の探求』 | 1992年 | ナカニシヤ出版 |
| ○ 伊藤美奈子 | 講義『子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導』 | 2010年 | 夏季集中講座
学習指導B資料
小学館 |
| ○ 佐藤学 | 『学校の挑戦 学びの共同体を創る』 | 2006年 | 小学館 |
| ○ 假屋園昭彦 | 児童の対話活動に対する教師の指導的参加の分析的研究(1) -道徳の時間における対話を生かした授業デザインの開発- | 2010年 | 鹿児島大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編
第61巻 |

＜参考文献＞

- | | | | |
|----------------------|----------------------------------|-------|-----------------------|
| ○ 押谷由夫・伊藤隆二
(編著) | 『新小学校教育課程講座＜道徳＞』 | 1999年 | ぎょうせい |
| ○ 押谷由夫・福田富美雄
(編著) | 『小学校 新学習指導要領の展開 道徳編』 | 2008年 | 明治図書 |
| ○ 近藤卓 | 『自尊感情と共有体験の心理学』 | 2010年 | 金子書房 |
| ○ 多田孝志 | 『対話力を育てる』 | 2006年 | 教育出版 |
| ○ 日本道徳性心理学研究会 | 『道徳性心理学』 | 1992年 | 北大路書房 |
| ○ 梶田叡一 | 『＜自己＞を育てる 真の主体性の確立』 | 1996年 | 金子書房 |
| ○ 梶田叡一 | 『子どもの自己概念と教育』 | 1985年 | 東京大学出版会 |
| ○ 青木孝頼 | 『道徳で心を育てる先生』 | 1988年 | 図書文化 |
| ○ 坂本千代 | 『自尊感情を育てる道徳の時間の指導の工夫』 | 2004年 | 東京都教員研究生
研究報告書 |
| ○ 松浦睦美 | 『児童の自尊感情をはぐくむ道徳の時間を狙って』 | 2009年 | 福井県教育研究所
研究紀要第114号 |
| ○ 研究誌 | 『自尊感情や自己肯定感に関する研究(第3年次)』 | 2011年 | 東京都教職員研修センター |
| ○ 研究誌 | 『道徳教育の研究から得たもの』(道徳の教育) | 2010年 | 鹿児島県小学校教育研究会道徳部会 |
| ○ 佐久間奈々子(編著) | 『自尊感情を育む道徳授業と資料集』 | 2011年 | 明治図書 |
| ○ 諸富 祥彦 | 『ほんものの「自己肯定感」を育てる道徳授業』 | 2011年 | 明治図書 |
| ○ 月刊誌 | 『児童心理 自尊感情を育てる』 | 2007年 | 金子書房 |
| ○ 押谷由夫(編集) | 『各教科で行う道徳的指導』 | 2009年 | 教育開発研究所 |
| ○ 河地和子 | 『自信力はどう育つか』 | 2003年 | 朝日新聞社 |
| ○ 古荘純一 | 『日本の子どもの自尊感情はなぜ低いのか 児童精神科医の現場報告』 | 2009年 | 光文社新書 |
| ○ 高垣忠一郎 | 『生きることと自己肯定感』 | 2004年 | 新日本出版社 |

長期研修者 [安 樂 朋 陽]

担当所員 [山 鹿 真 人]

【研究概要】

本研究は、子どもたち一人一人の自尊感情を育てる道徳学習の在り方について研究したものである。

具体的には、まず、自尊感情やその構成要素を定義付け、内容項目との関連を明らかにした。そして、自尊感情の七つの構成要素に関わる内容項目間の関連を図り、子どもの実態や発達の段階に即して道徳の時間と各教科等を結び付けた、計画的、発展的な「『自尊感情』道徳学習」の指導計画を作成した。さらに、道徳の時間において「協同的な学び」を生かした指導法の工夫を行い、授業で検証した。

その結果、自己を肯定的に評価したり、他者から肯定的に評価されたりする場を効果的に設定することができ、積極的に発表したり、自分の役割を主体的に果たしたりする子どもの姿が多く見られるようになり、本研究が、子どもの自尊感情を育てるのに有効であることが分かった。

【担当所員の所見】

本研究は、小学校学習指導要領解説道徳編に示されている「人間としてよりよく生きるための基礎・基本となる道徳性を育成する」ために、自尊感情に焦点を当てたものである。

研究内容の特色を三点挙げる。

第1に、自尊感情とはどういうものかについて、その構成要素を分析することで明らかにし、発達の段階に即した重点化に取り組んだこと。

第2に、「『自尊感情』道徳学習」は、道徳の時間における内容項目間の関連を図るとともに、道徳の時間と各教科等との関連を図ることによって、まさに、「道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通して行う道徳教育」の具現化を目指すものになっていること。

第3に、協同的な学びを生かすことで、信頼関係や温かい人間関係を基盤におき、子どもが自己への問い掛けを深め、未来に夢や希望をもつことを目指す授業になっていること。

これらの特色は、小学校学習指導要領解説道徳編の「3 内容の取り扱い方」で求められている「関連的、発展的な取り扱い」及び「各学校における重点的指導」についての、具体的で有効な工夫となっており、時宜を得た研究である。

今後も本研究を継続し、生きる上で基盤となる道徳的価値観の形成及び自己の生き方についての指導を、更に充実させてほしい。